

葛城市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】

平成 29 年 9 月

葛 城 市

【目次】

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
1. 調査対象者について	3
2. 調査対象者の家族や生活状況について	5
3. からだを動かすことについて	9
4. 食べることについて	15
5. 毎日の生活について	19
6. 健康について	24
7. 医療と介護について	28
8. たすけあいについて	41
9. 地域での活動について	42

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、支援を必要とする高齢者を早期に把握し、その支援方策の検討や、介護予防の推進を図るため、また、高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画の策定に向けた基礎資料を得ることを目的として実施しました。

調査項目については、国が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目に加え、医療と介護に関する本市の独自設問を加えています。

2. 調査概要

- 調査地域：葛城市全域
- 調査対象者：平成29年6月1日時点において、要介護認定を受けていない65歳以上の方（要支援認定者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者は含む）を無作為に抽出
- 調査期間：平成29年7月1日（土）～平成29年7月14日（金）
- 調査方法：調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族等による代筆可）
郵送配布・郵送回収による郵送調査

	調査票配布数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	1,500	921	61.4%

3. 報告書の見方

- 回答結果の比率 (%) は、全回答者数（無回答・不明を含む）に対する、それぞれの選択肢の回答比率を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値がちょうど100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢からあてはまるすべての選択肢を選ぶことのできる方式）の設問の場合、1人の回答者が複数の選択肢を回答している場合があるため、選択肢ごとの回答率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答・不明」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（回答者限定設問の場合は限定条件に該当する人の総数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

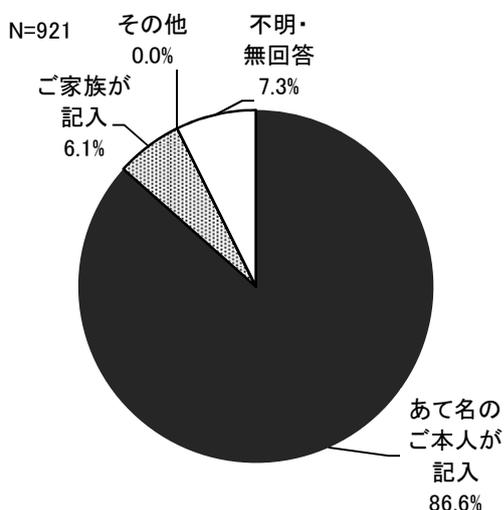
II. 調査結果

1. 調査対象者について

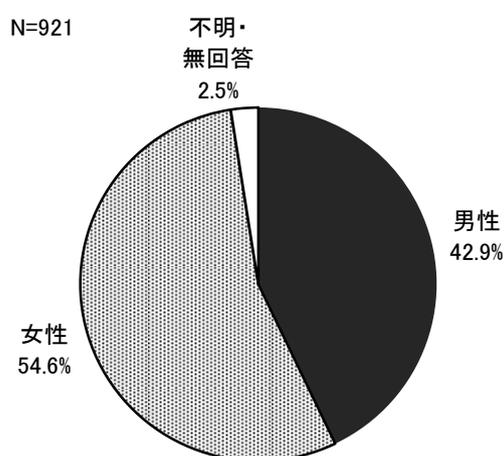
(1) 調査票の記入者、調査対象者の性別・年齢・小学校区【問1(1)～(3)】

調査票の記入者については、86.6%が調査対象者本人による記入、6.1%は家族が記入となっています。調査対象者の性別は、女性が54.6%とやや高くなっています。調査対象者の年齢は「65～69歳」が31.6%と最も高く、次いで「70～74歳」が25.3%となっており、75歳以上の回答者は全体の40.5%となっています。小学校区は「磐城小学校区」が28.8%と最も高く、次いで「新庄小学校区」が24.3%となっています。

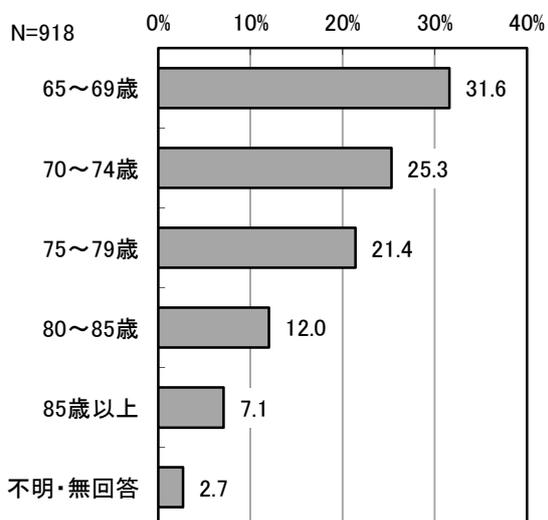
《調査票の記入者》



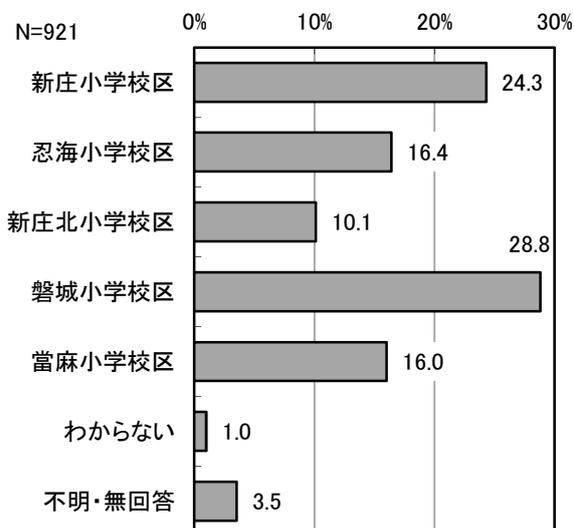
《性別》



《年齢》

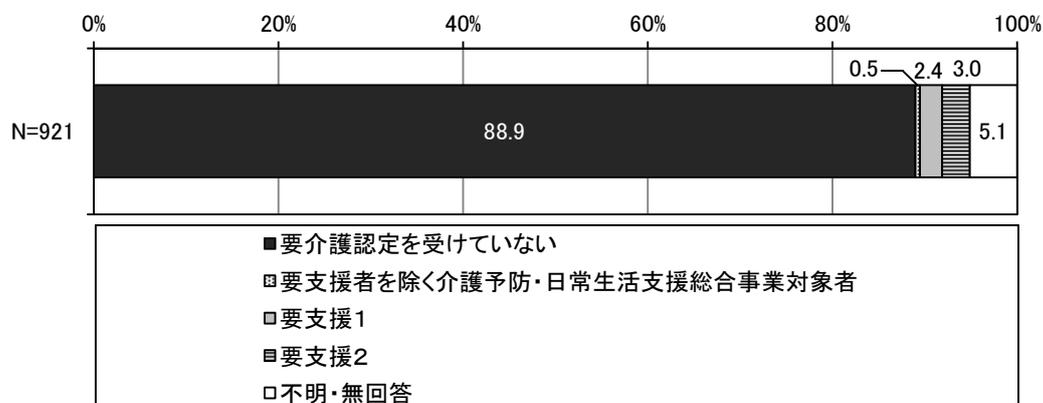


《居住小学校区》



(2) 調査対象者の要介護認定状況【問1(4)】

調査対象者の要介護認定状況については、「要介護認定を受けていない」が88.9%と最も高く、「要支援1」「要支援2」がそれぞれ2.4%、3.0%となっています。



■クロス集計【問1(4)×年齢別】

年齢別にみると、「要介護認定を受けていない」の割合は、年齢があがるにつれて低くなっています。「要支援1」「要支援2」は、80歳以上から高くなっています。

	要介護認定を受けていない	要支援者を除く介護予防・日常生活支援総合事業対象者	要支援1	要支援2	不明・無回答
65～69歳 (N=290)	98.6	0.3	0.3	0.0	0.7
70～74歳 (N=232)	95.7	0.0	1.3	0.9	2.2
75～79歳 (N=196)	90.8	0.5	1.5	2.6	4.6
80～84歳 (N=110)	79.1	1.8	7.3	8.2	3.6
85歳以上 (N=65)	64.6	1.5	10.8	18.5	4.6

■クロス集計【問1(4)×小学校区別】

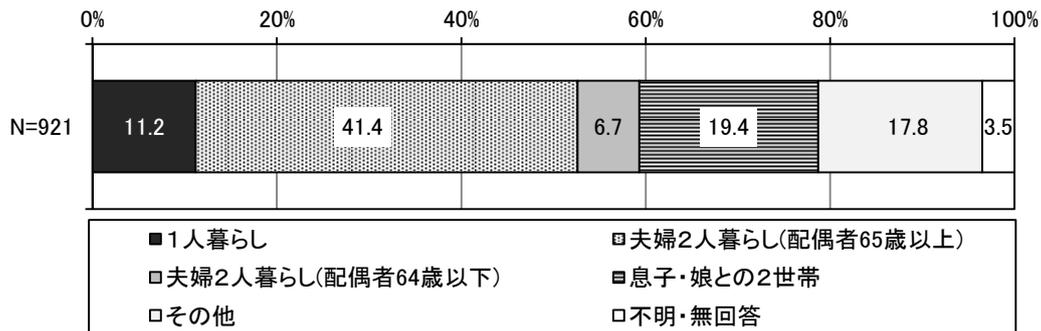
小学校区別にみると、「要介護認定を受けていない」の割合は、『新庄北小学校区』で高くなっており、『市全体』と比較しても10.0ポイント高くなっています。

	要介護認定を受けていない	要支援者を除く介護予防・日常生活支援総合事業対象者	要支援1	要支援2	不明・無回答
市全体 (N=921)	88.9	0.5	2.4	3.0	5.1
新庄小学校区 (N=224)	93.3	0.0	0.4	3.6	2.7
忍海小学校区 (N=151)	90.1	1.3	3.3	3.3	2.0
新庄北小学校区 (N=93)	98.9	0.0	0.0	1.1	0.0
磐城小学校区 (N=265)	89.8	1.1	3.4	3.8	1.9
當麻小学校区 (N=147)	89.1	0.0	4.8	2.0	4.1

2. 調査対象者の家族や生活状況について

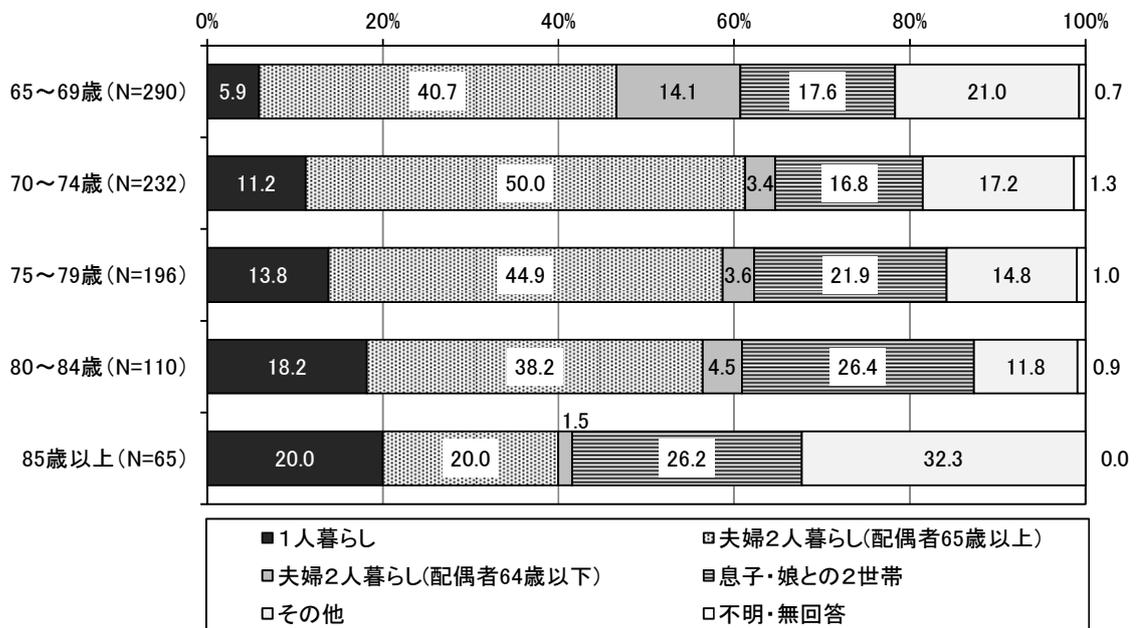
(1) 家族構成【問2(1)】

調査対象者の家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が41.4%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が19.4%となっています。



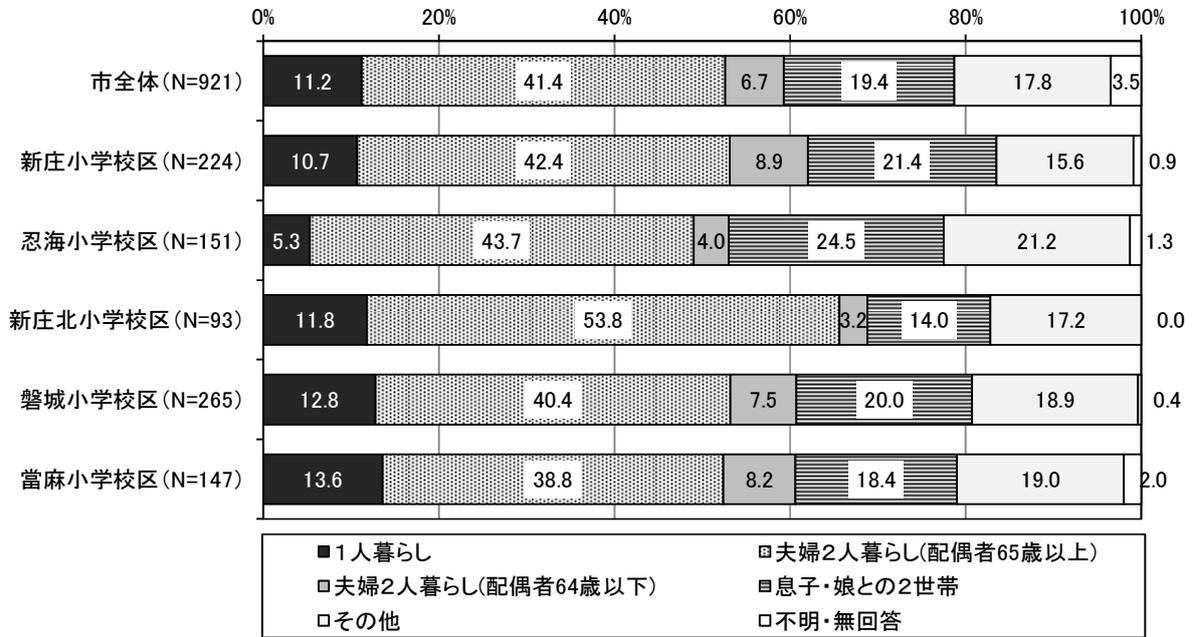
■クロス集計【問2(1)×年齢別】

年齢別にみると、「1人暮らし」の割合は、年齢があがるにつれて高くなっています。



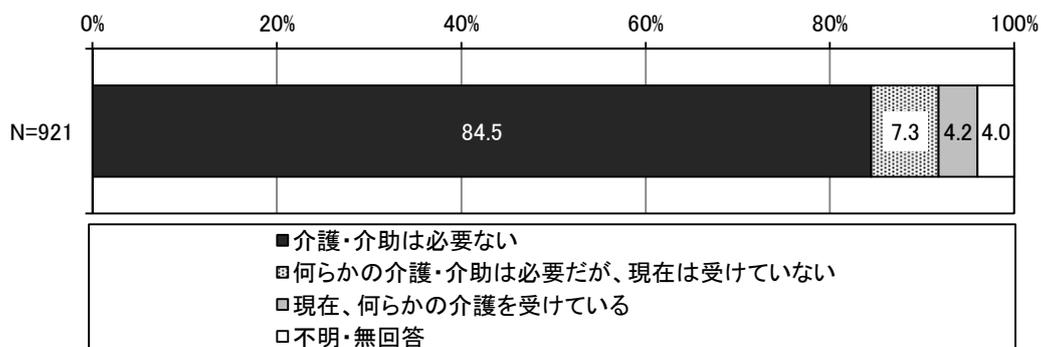
■クロス集計【問2(1)×小学校区別】

小学校区別にみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合は、『新庄北小学校区』で高くなっており、『市全体』と比較しても12.4ポイント高くなっています。



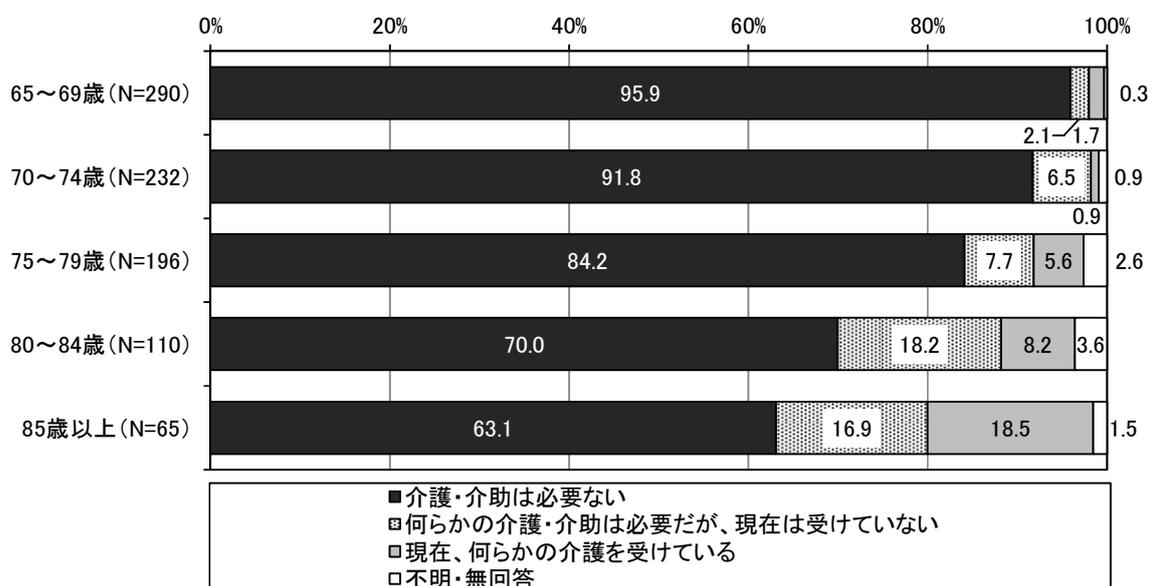
(2) 普段の生活で介護・介助を必要としているか【問2(2)】

普段の生活における介護・介助の必要性についてみると、「介護・介助は必要ない」が84.5%となっています。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」という回答は、合計で11.5%となっています。



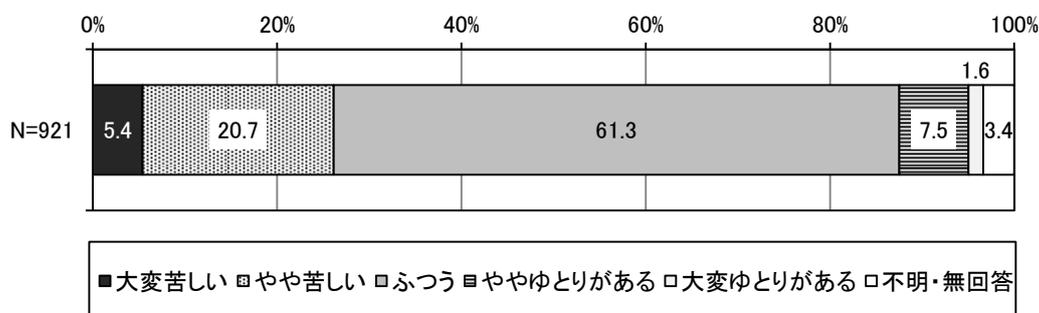
■クロス集計【問2(2)×年齢別】

年齢別にみると、「介護・介助は必要ない」の割合は、年齢があがるにつれて低くなっています。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は、『80～84歳』で最も高く、18.2%となっています。



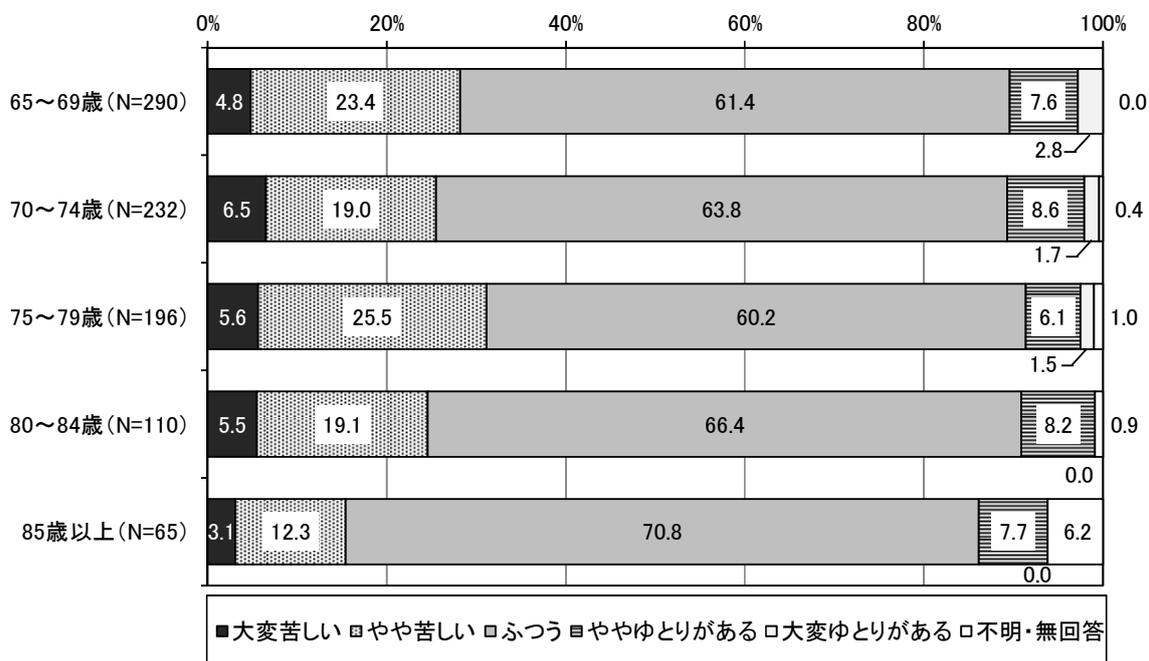
(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じるか【問2(3)】

現在の暮らしの状況についてみると、「ふつう」が61.3%と最も高くなっています。また、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた26.1%が苦しさを感じている一方で、「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」の合計は9.1%となっています。



■クロス集計【問2(3)×年齢別】

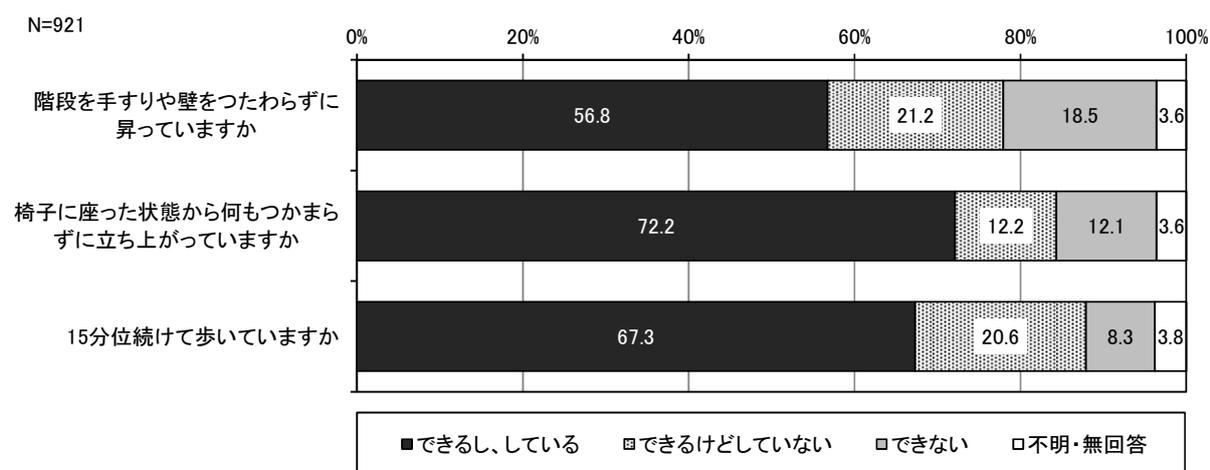
年齢別にみると、「ふつう」の割合は、年齢があがるにつれて高くなる傾向にあります。その割合は『85歳以上』で最も高く、70.8%となっています。



3. からだを動かすことについて

(1) からだを動かすことに関する状況【問3(1)~(3)】

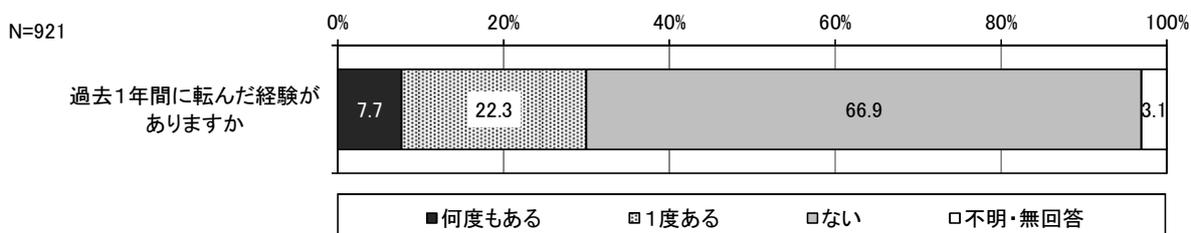
日常生活における運動について、「できるし、している」の割合は【階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか】では56.8%、【椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか】では72.2%、【15分位続けて歩いていますか】では67.3%となっています。



(2) 転倒の経験【問3(4)】

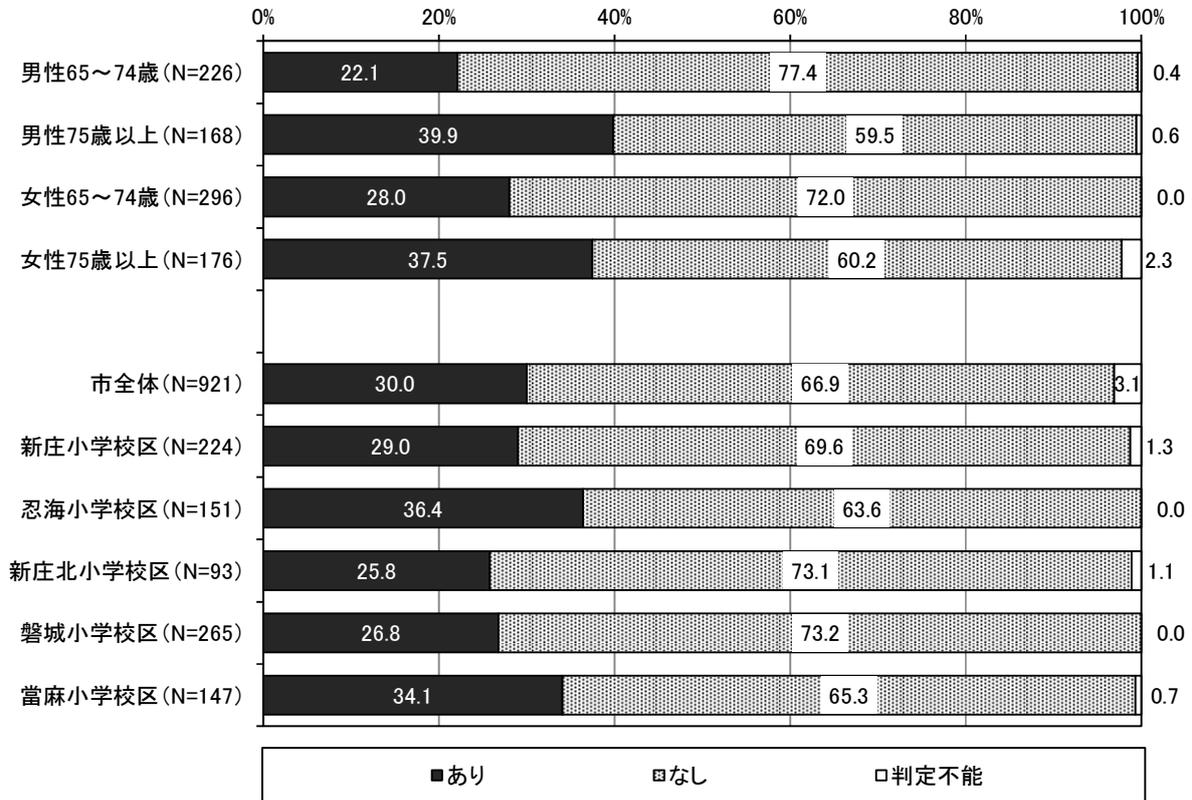
過去1年間の転倒の経験についてみると、「何度もある」が7.7%、「1度ある」が22.3%となっています。

この設問は、転倒リスクを把握する設問となっており、「何度もある」または「1度ある」が回答された場合は転倒リスクのある高齢者と判定されます。本調査では、転倒リスクのある人は30.0%となっています。



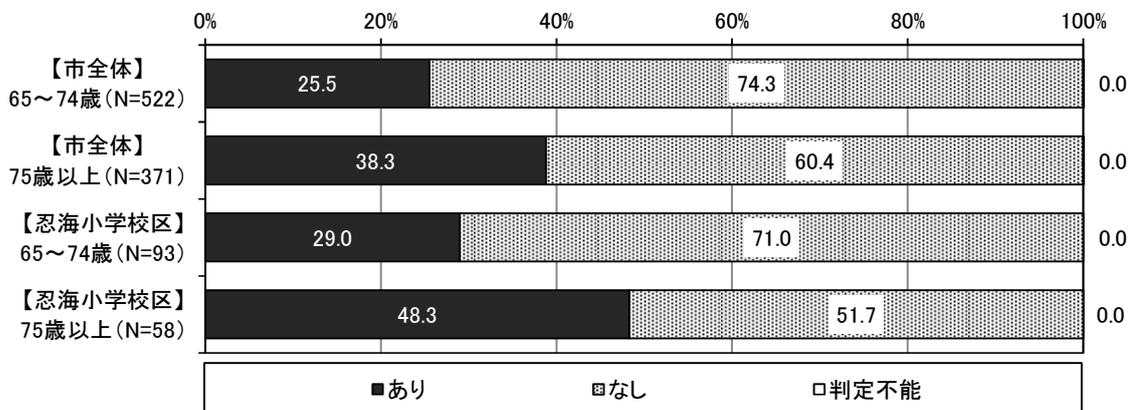
■クロス集計【転倒リスク×男女別・年齢別及び小学校区別】

男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で転倒リスクが高くなっています。
 小学校区別にみると、『忍海小学校区』でやや高くなっており、『市全体』と比較して6.4ポイント高くなっています。



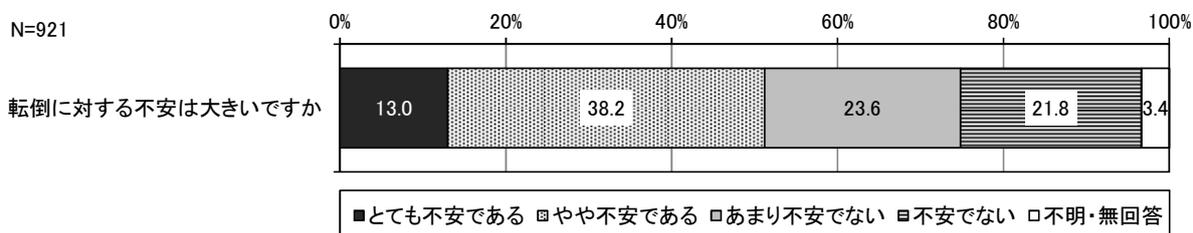
■クロス集計【転倒リスク×忍海小学校区の年齢（前期・後期高齢）別】

『忍海小学校区』の年齢（前期・後期高齢）別にみると、『市全体』と比較して、いずれも転倒リスクが高くなっていますが、特に75歳以上において10.0ポイント高くなっています。



(3) 転倒に対する不安【問3(5)】

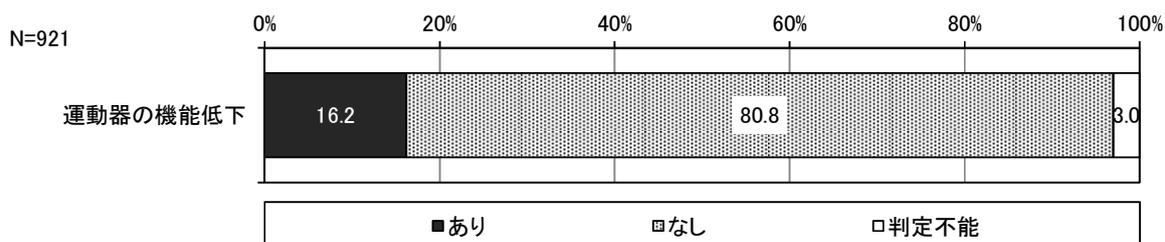
転倒に対する不安についてみると、「とても不安である」「やや不安である」を合わせた『転倒に対して不安』な人は、51.2%となっています。



(4) 運動器の機能低下

(1) から (3) の設問は、運動器の機能低下を把握する設問となっています。下の表のとおり運動器の機能低下の有無を判定した結果をみると、16.2%に運動器の低下がみられます。

なお、該当する設問に不明・無回答があり、判定ができない回答者については「判定不能」としてしています。



■運動器の機能低下

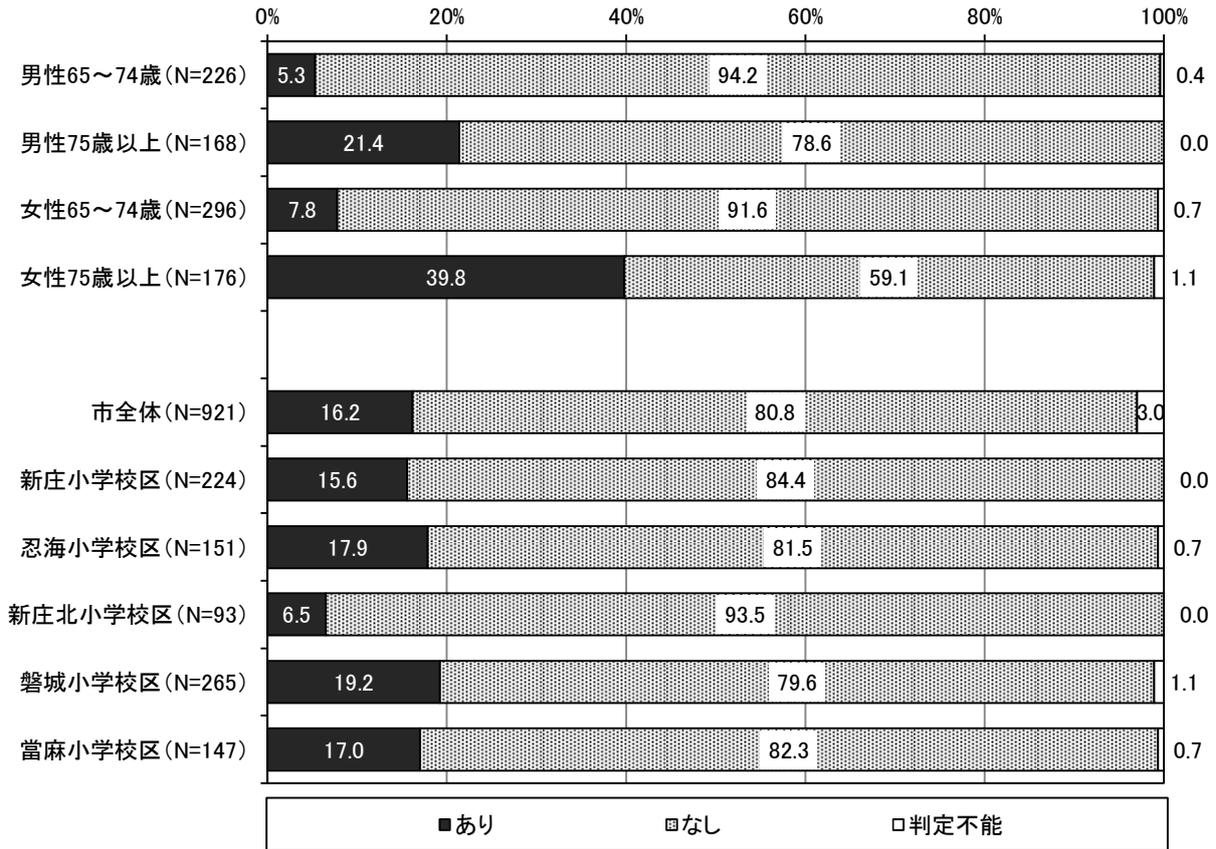
設問内容	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
15分くらい続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

※上の表で3設問以上、該当する選択肢(上の表の網掛け箇所)が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者になります。

■クロス集計【運動器の機能低下×男女別・年齢別及び小学校区別】

男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で運動器の機能低下が高くなっています。また、男性より女性の方が高くなっており、75歳以上の女性では男性に比べて18.4ポイント高くなっています。

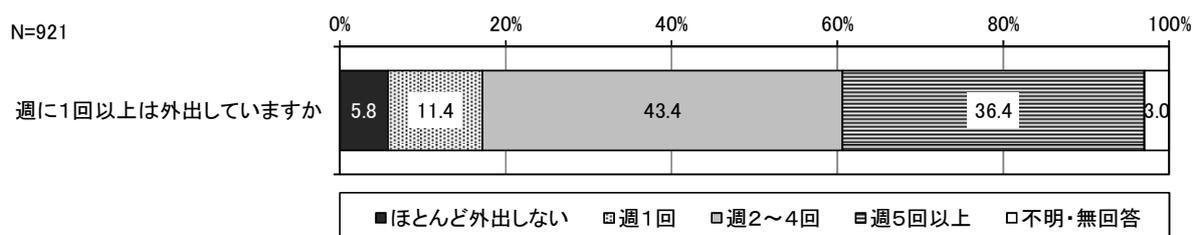
小学校区別にみると、『新庄北小学校区』で低くなっており、『市全体』と比較して9.7ポイント低くなっています。



(5) 外出の頻度【問3(6)】

週に1回以上は外出するかについてみると、「週2～4回」が43.4%と最も高く、次いで「週5回以上」が36.4%となっています。

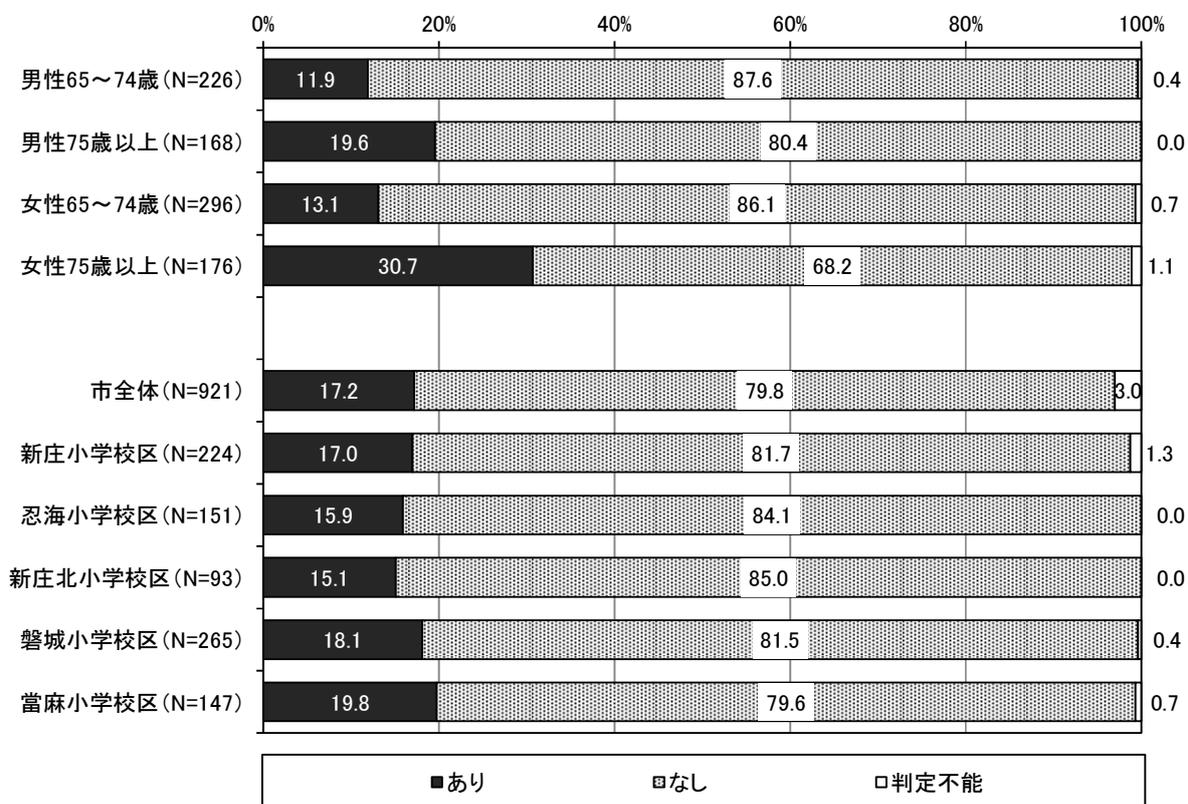
この設問は、閉じこもり傾向を把握する設問となっており、「ほとんど外出しない」または「週1回」が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。本調査では、閉じこもり傾向のある人は、17.2%となっています。



■クロス集計【閉じこもり傾向×男女別・年齢別及び小学校区別】

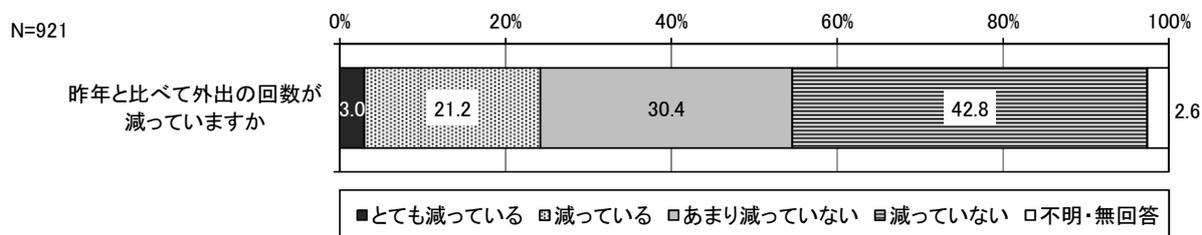
男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で閉じこもり傾向が高くなっています。また、男性より女性の方が高くなっており、75歳以上の女性では男性に比べて11.1ポイント高くなっています。

小学校区別にみると、特に大きな差はみられません。



(6) 昨年と比べて外出の回数【問3(7)】

昨年と比べて外出の回数についてみると、全体では「減っていない」が42.8%と最も高く、次いで「あまり減っていない」が30.4%となっています。



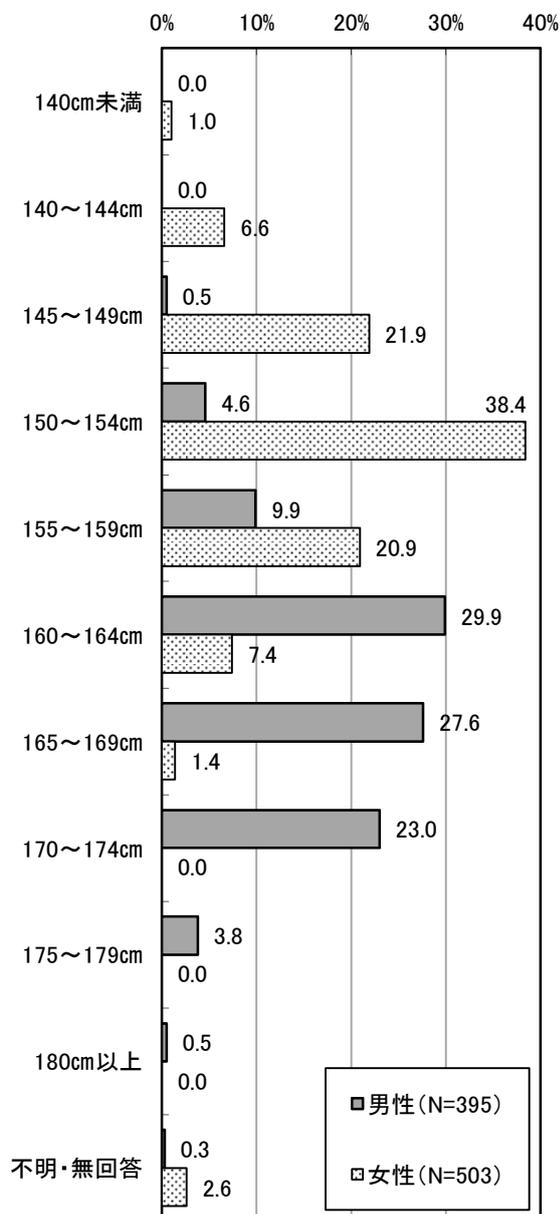
4. 食べることについて

(1) 身長・体重及びBMI【問4(1)】

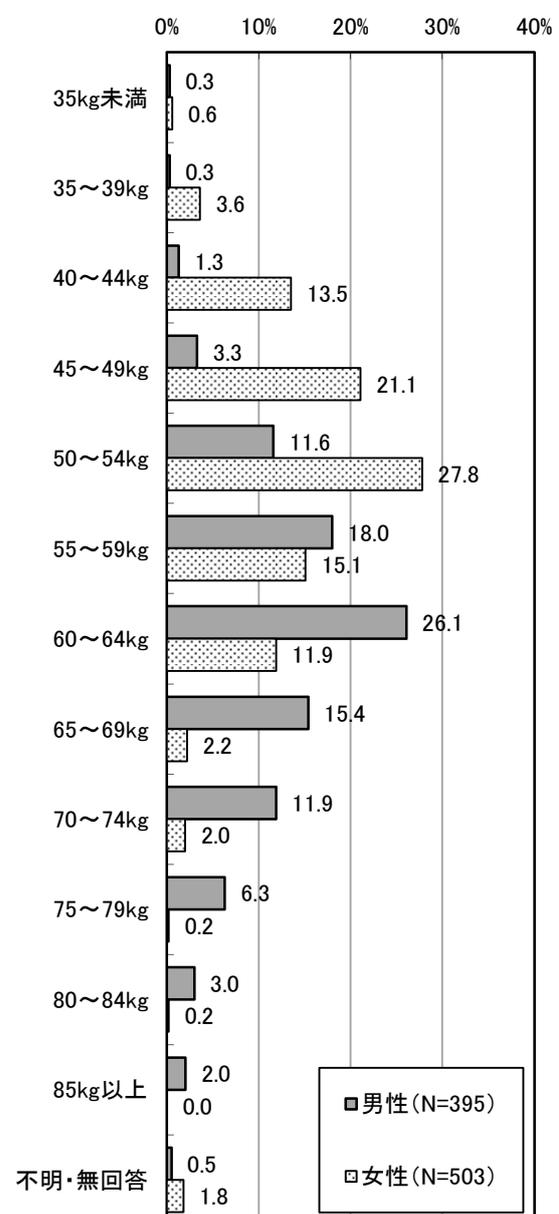
身長についてみると、男性では「160～164cm」が29.9%と最も高く、次いで「165～169cm」が27.6%となっています。女性では「150～154cm」が38.4%と最も高く、次いで「145cm～149cm」が21.9%となっています。

体重についてみると、男性では「60～64kg」が26.1%と最も高く、次いで「55～59kg」が18.0%となっています。女性では「50～54kg」が27.8%と最も高く、次いで「45～49kg」が21.1%となっています。

《身長》



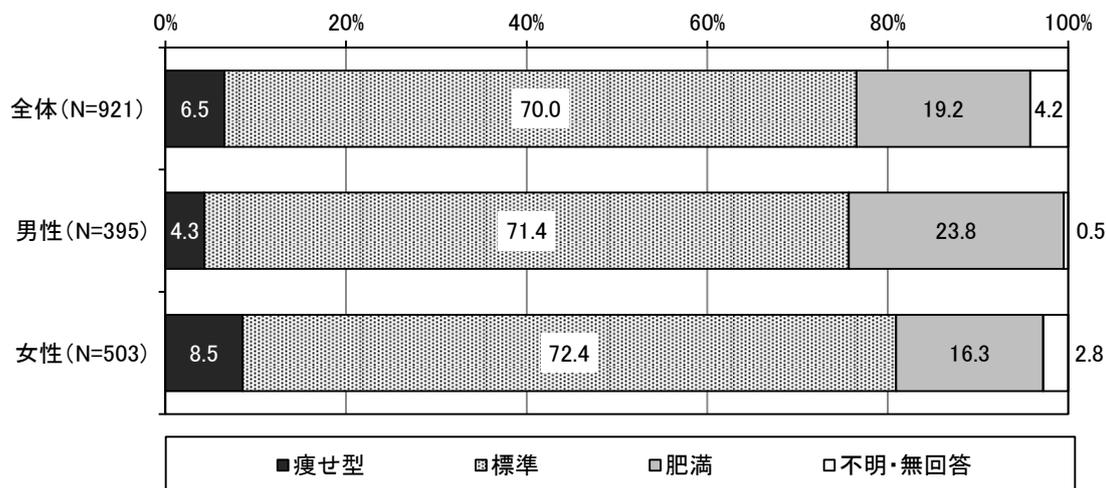
《体重》



BMI 指数についてみると、全体では 18.5 以下の「痩せ型」が 6.5%、25 以上の「肥満」が 19.2%となっています。男性では 4.3%、女性では 8.5%が「痩せ型」となっています。

BMI 指数が 18.5 以下の「痩せ型」の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。

《BMI 指数》

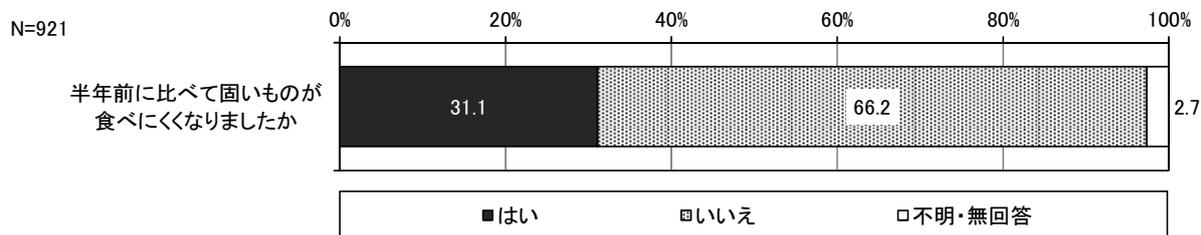


※BMI 指数は次の式で算出されます。BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m)²

(2) 咀嚼機能【問 4 (2)】

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについてみると、「はい」が 31.1%、「いいえ」が 66.2%となっています。

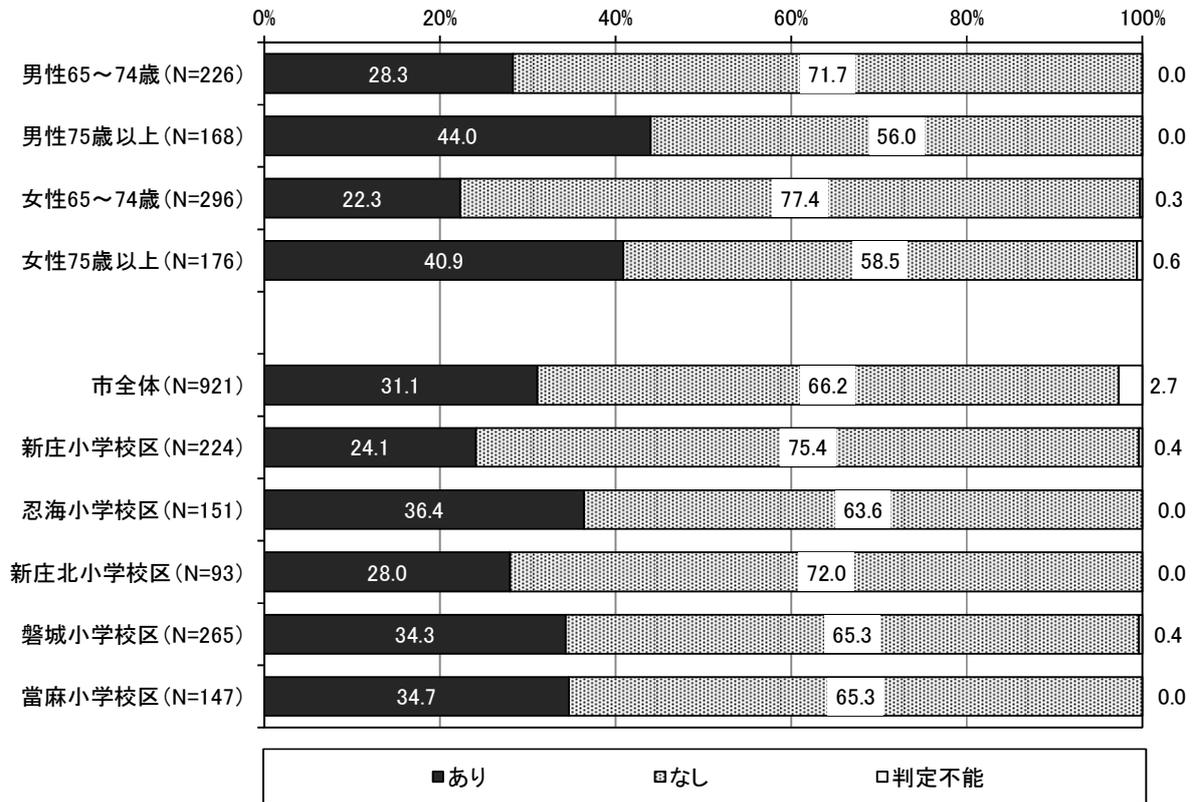
この設問は、咀嚼機能の低下を把握する設問となっており、「はい」と回答した人は咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。



■クロス集計【咀嚼機能×男女別・年齢別及び小学校区別】

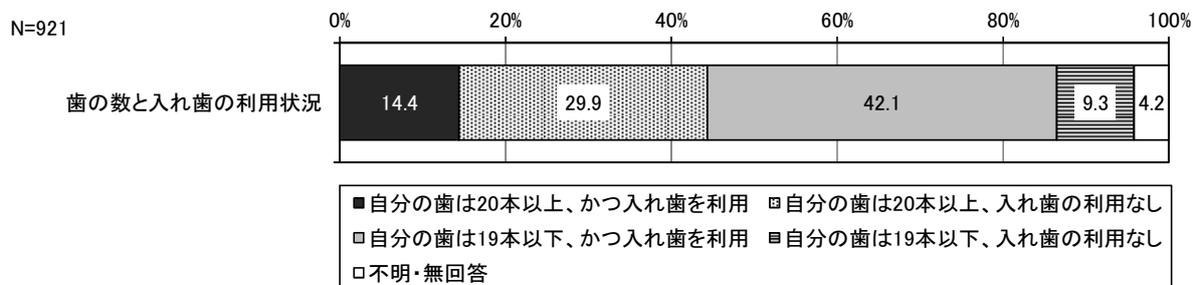
男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で咀嚼機能低下の割合が高くなっています。また、女性より男性の方がやや高くなっています。

小学校区別にみると、『新庄小学校区』でやや低くなっており、『市全体』と比較して7.0ポイント低くなっています。



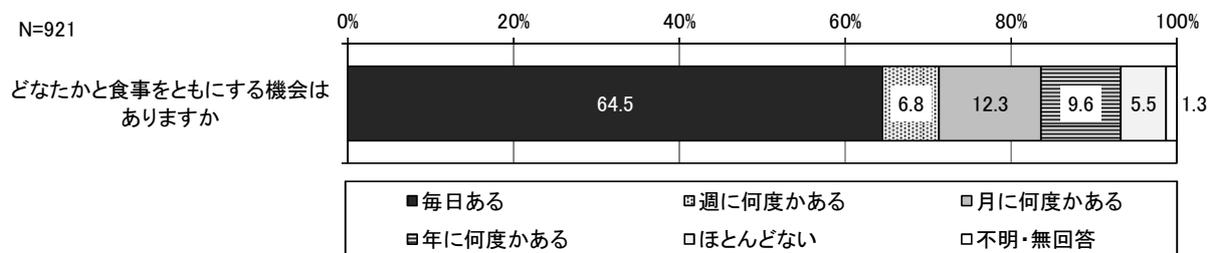
(3) 歯の数及び入れ歯の利用状況【問4(3)】

歯の数及び入れ歯の利用状況についてみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が42.1%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が29.9%となっています。



(4) 食事をとともにする機会【問4(4)】

誰かと食事をとともにする機会の有無についてみると、「毎日ある」が64.5%と最も高く、次いで「月に何度かある」が12.3%となっています。「週に何度かある」「月に何度かある」を合わせると、全体の83.6%は定期的に誰かと食事をとともにする機会をもっていることになります。

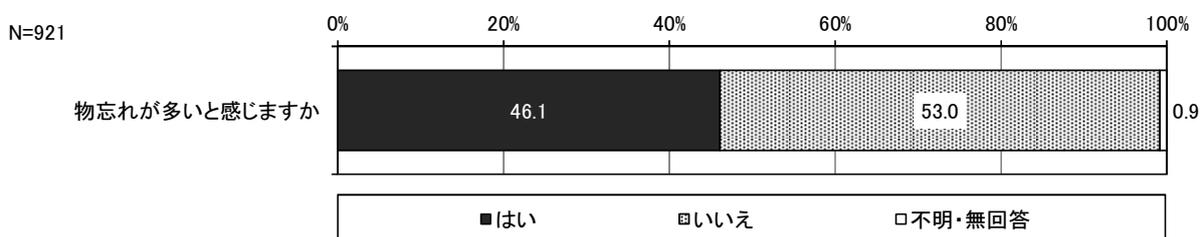


5. 毎日の生活について

(1) 毎日の生活に関する状況①【問5(1)】

物忘れが多いと感じるかについてみると、「はい」が46.1%、「いいえ」が53.0%となっています。

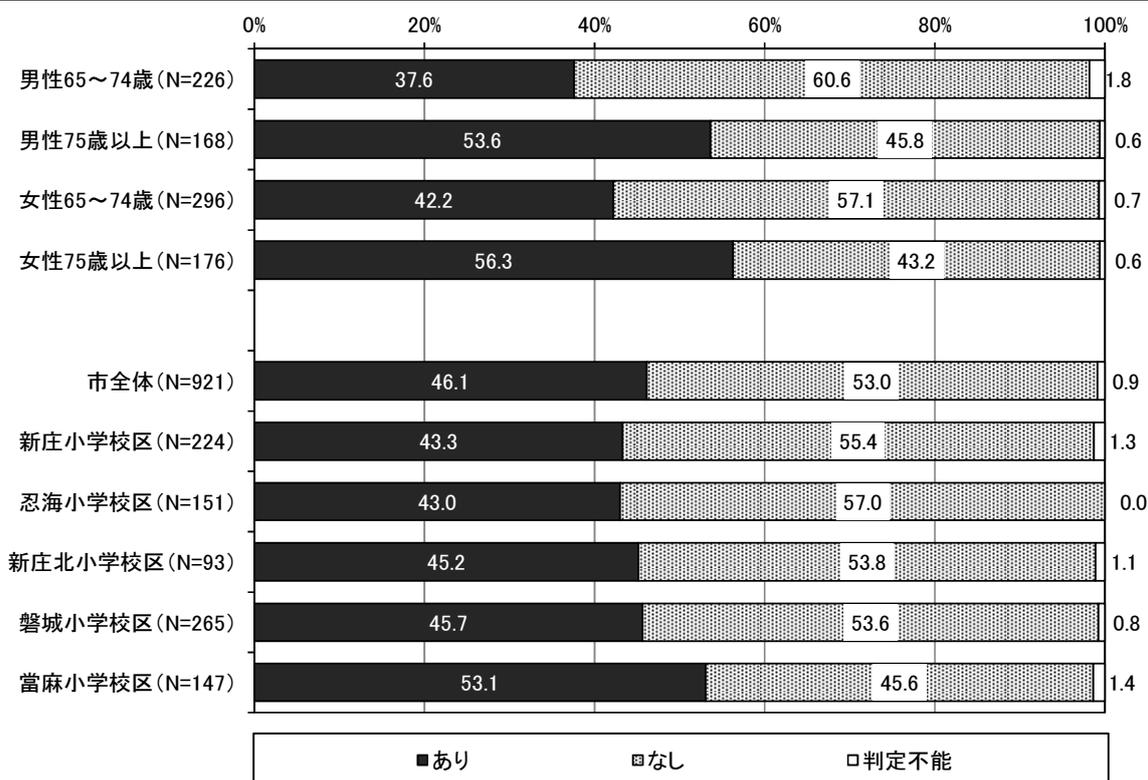
この設問は、認知リスクを把握する設問となっており、「はい」が回答された場合は認知リスクのある高齢者と判定されます。本調査では、認知リスクのある人は46.1%となっています。



■クロス集計【認知リスク×男女別・年齢別及び小学校区別】

男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で半数以上が認知リスクの該当者となっています。また、男性より女性の方が高くなる傾向にあります。

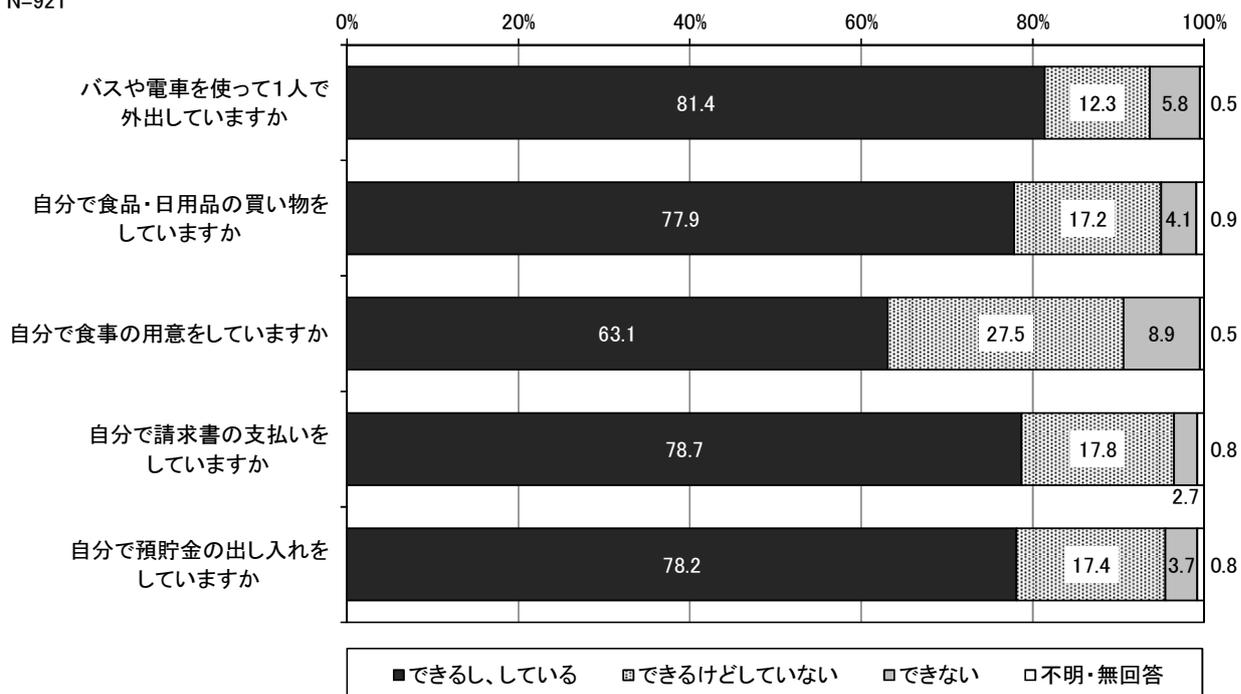
小学校区別にみると、『當麻小学校区』で『市全体』と比較して7.0ポイント高くなっています。



(2) 毎日の生活に関する状況②【問5(2)～(6)】

毎日の生活について「できない」をみると、【バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)】が5.8%、【自分で食品・日用品の買い物をしていますか】が4.1%、【自分で食事の用意をしていますか】が8.9%、【自分で請求書の支払いをしていますか】が2.7%、【自分で預貯金の出し入れをしていますか】が3.7%となっています。

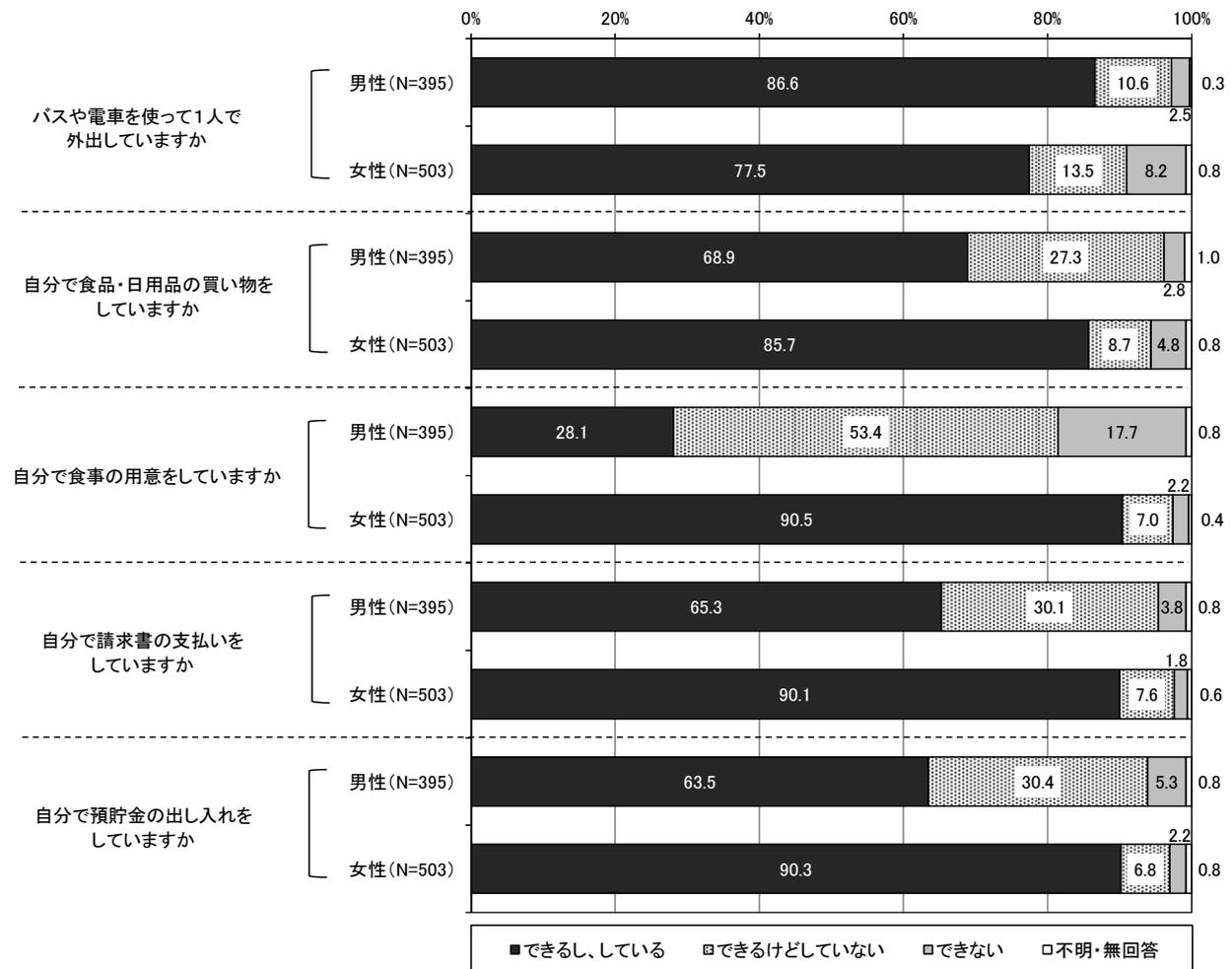
N=921



■クロス集計【問5(2)～(6)×男女別】

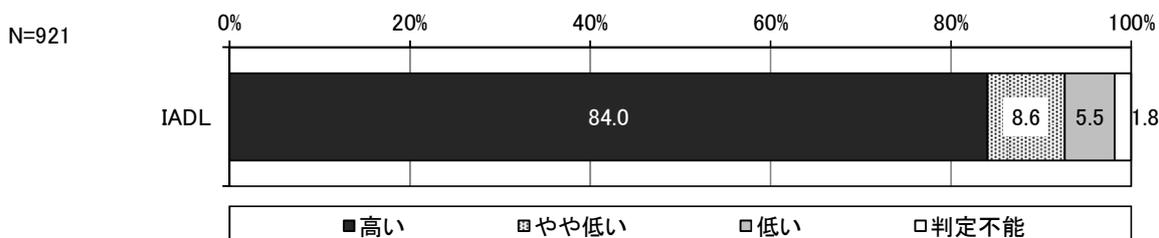
男女別にみると、【バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)】では、女性における「できない」が男性に比べて5.7ポイント高くなっています。

また、【自分で食品・日用品の買い物をしていますか】【自分で請求書の支払いをしていますか】【自分で預貯金の出し入れをしていますか】の設問については、男性における「できるけどしていない」が女性に比べて20ポイント前後高いのに対して、【自分で食事の用意をしていますか】については、46.4ポイントも高くなっています。



(3) IADL (Instrumental Activities of Daily Living : 手段的日常生活動作)

(2) の設問は、IADL (Instrumental Activities of Daily Living : 手段的日常生活動作) の低下を問う設問となっています。下の表の通りに IADL を判定した結果をみると、「高い」が 84.0%、「やや低い」が 8.6%、「低い」が 5.5%となっています。



■ IADL

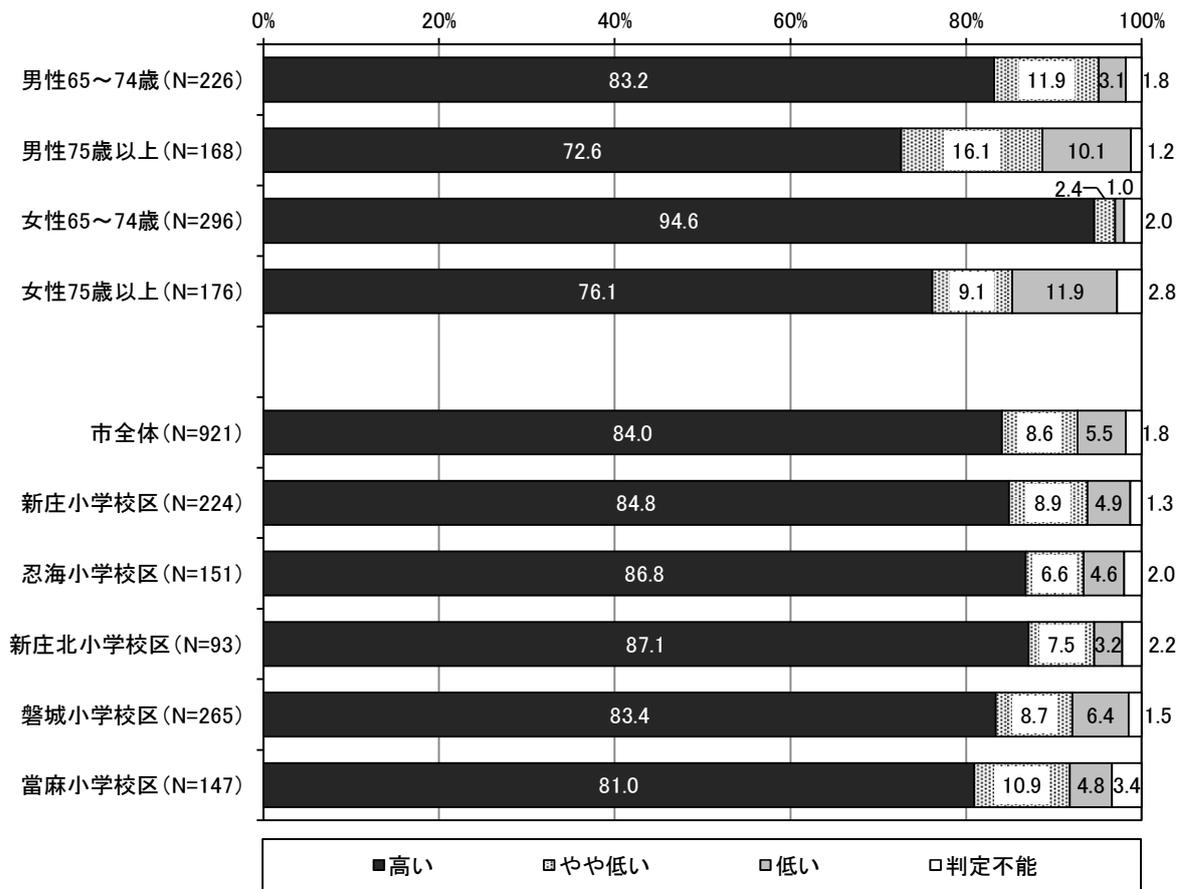
設問内容	選択肢
バスや電車を使ってひとりで外出していますか (自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

※上の表で、該当する選択肢(上の表の網掛け箇所)が回答された場合は1点と数え、合計が5点でIADLが「高い」、4点で「やや低い」、0~3点で「低い」と判定されます。

■クロス集計【IADL×男女別・年齢別及び小学校区別】

男女別・年齢別にみると、男性はいずれの年代においても「やや低い」が高くなっています。これは「自分で食事の用意」について「できない」の回答が多いことが主な要因と考えられます。また、女性の75歳以上では「やや低い」「低い」が増加しています。これは「バスや電車を使って1人で外出」について「できない」の回答が多いことが主な要因と考えられます。

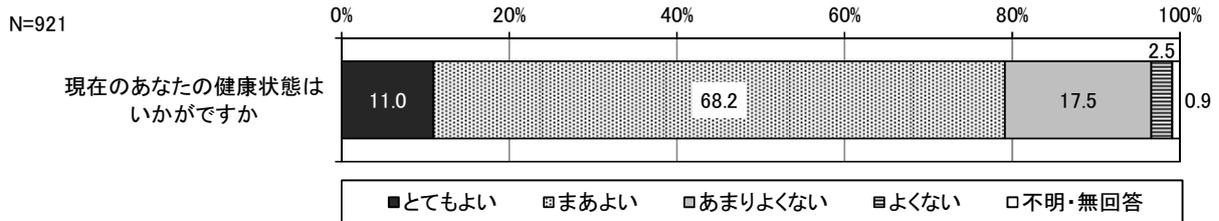
小学校区別にみると、特に大きな差はみられません。



6. 健康について

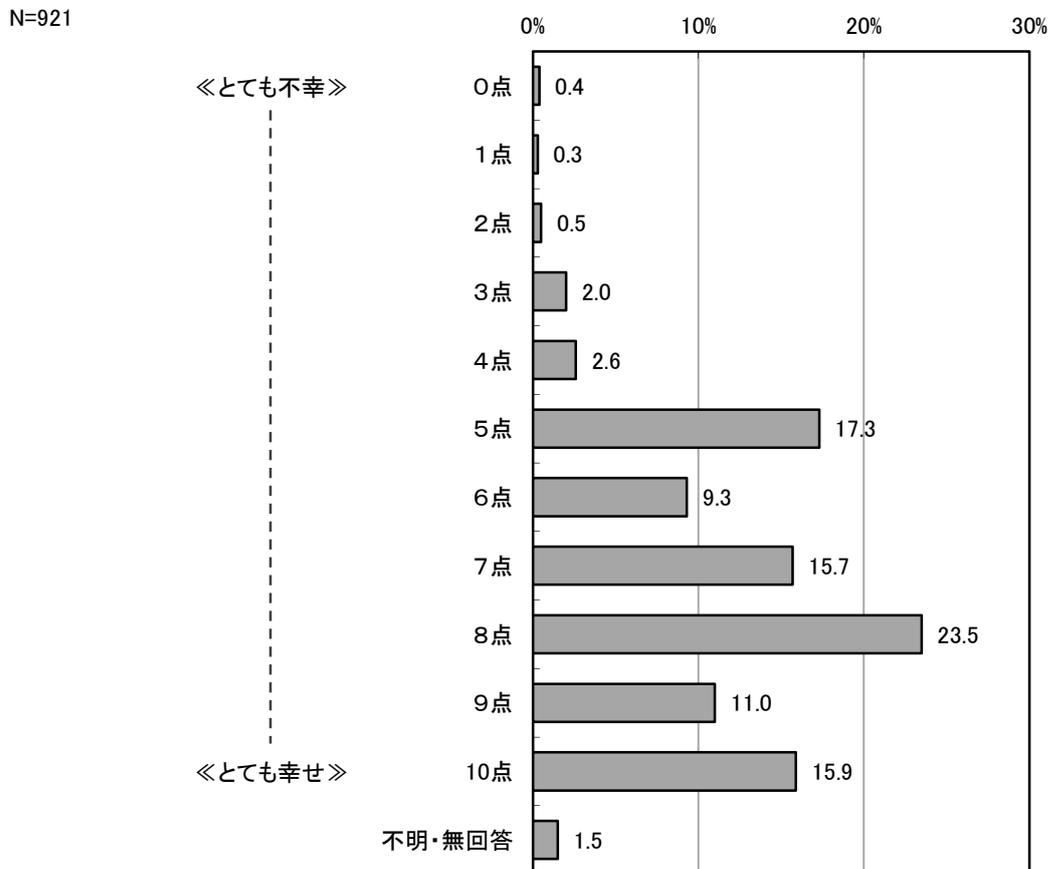
(1) 現在の健康状態について【問6(1)】

現在の健康状態については、「とてもよい」「まあよい」の合計が 79.2%となっています。一方で、「あまりよくない」「よくない」の合計は 20.0%となっています。



(2) 現在の幸福度について【問6(2)】

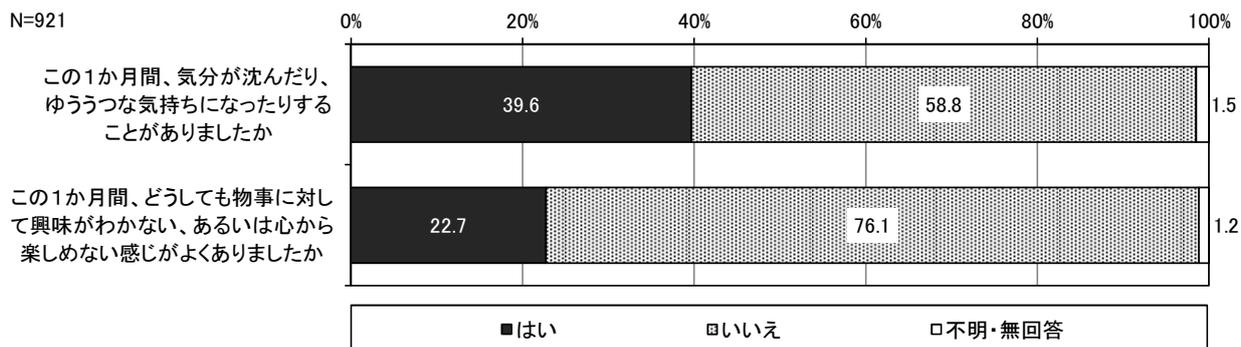
現在の幸福度についてみると、全体では「8点」が 23.5%と最も高く、次いで「5点」が 17.3%となっています。また、平均点は 7.3 点となっています。



(3) 心の健康について【問6(3)~(4)】

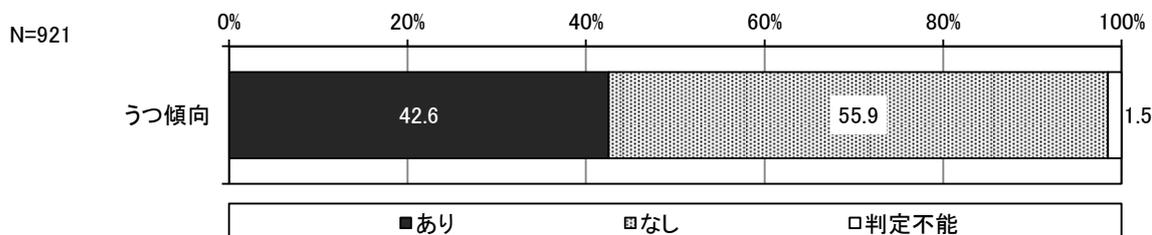
【この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか】については、「いいえ」が58.8%、「はい」が39.6%となっています。

また、【この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか】については、「いいえ」が76.1%、「はい」が22.7%となっています。



(4) うつ傾向

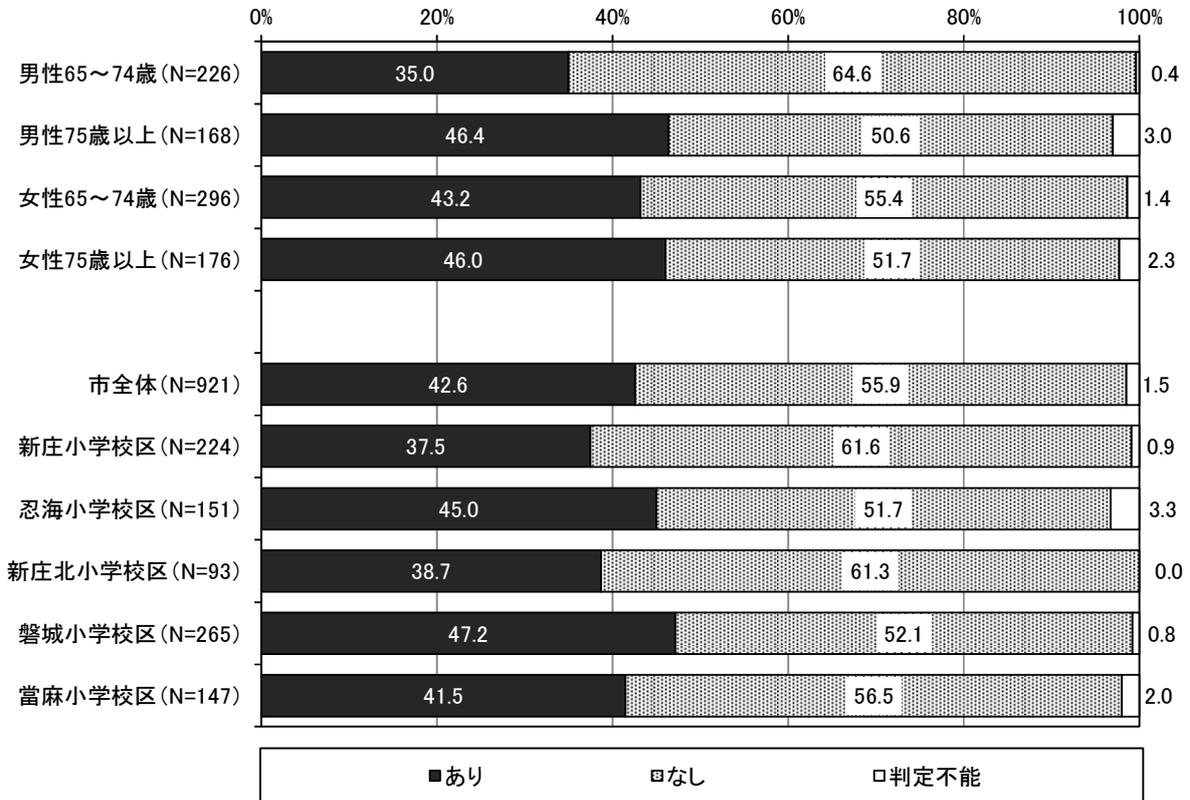
(3) の設問については、うつ傾向を問う設問となっており、いずれか1つでも「はい」が回答された場合は、うつ傾向の高齢者になります。本調査では、うつ傾向のある人は、42.6%となっています。



■クロス集計【うつ傾向×男女別・年齢別及び小学校区別】

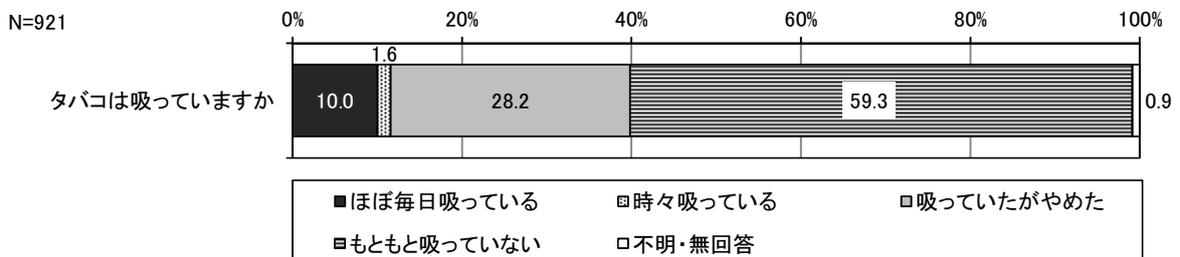
男女別・年齢別にみると、男女いずれも75歳以上で半数近くがうつ傾向の該当者となっています。また、65～74歳では男性より女性の方が高くなっています。

小学校区別にみると、『新庄小学校区』でやや低くなっています。



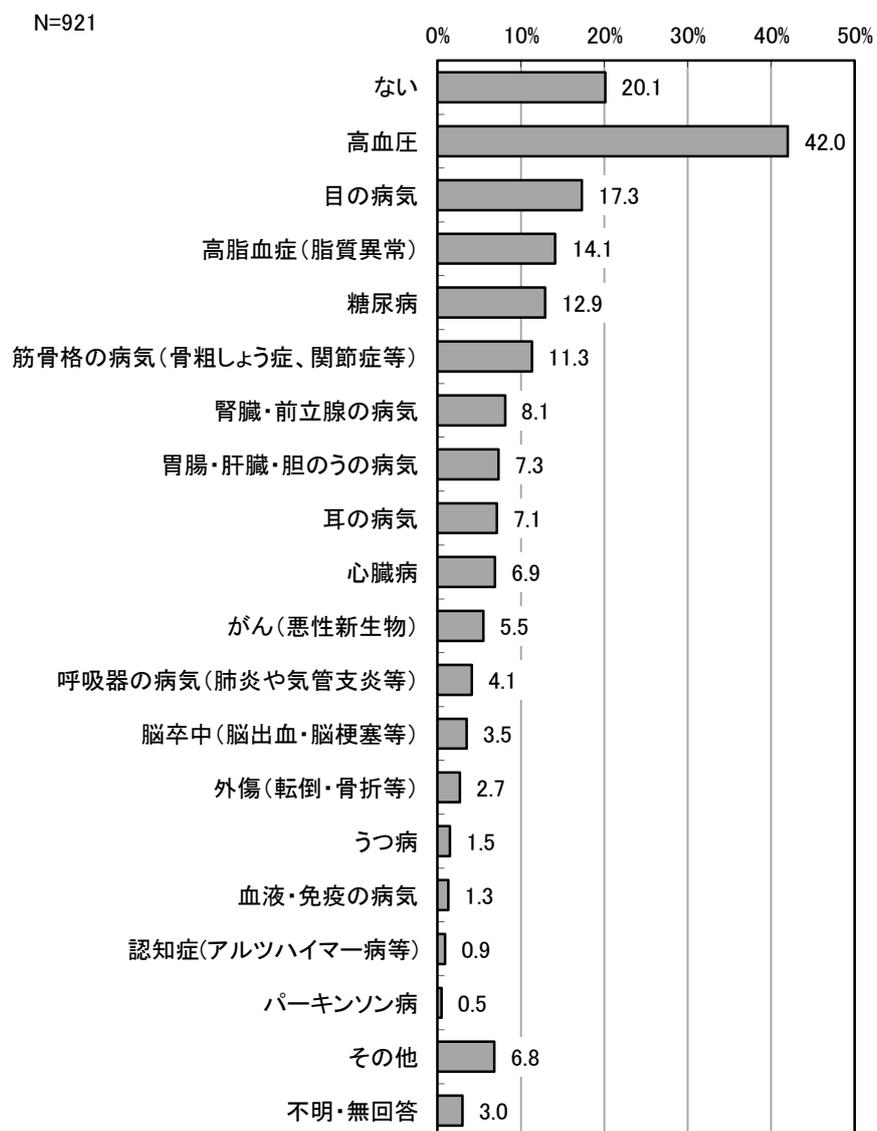
(5) 喫煙の習慣【問6(5)】

喫煙の習慣については、「もともと吸っていない」が59.3%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が28.2%となっています。現在喫煙しているのは11.6%となっています。



(6) 現在治療中、または後遺症のある病気【問6(6)】

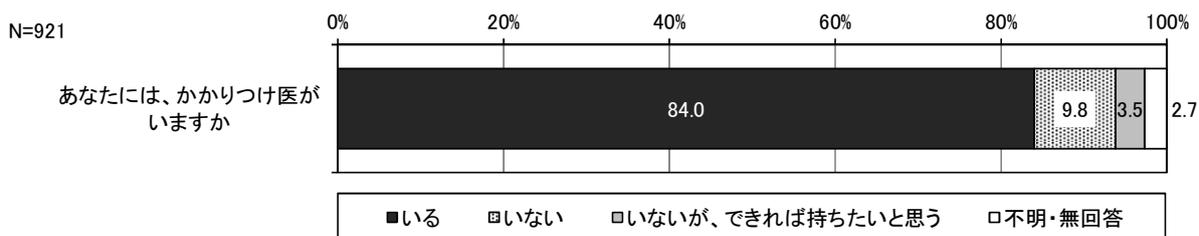
現在治療中、または後遺症のある病気としては「高血圧」が42.0%で特に高くなっています。次いで、「目の病気」「高脂血症(脂質異常)」「糖尿病」「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」がそれぞれ1割台となっています。



7. 医療と介護について

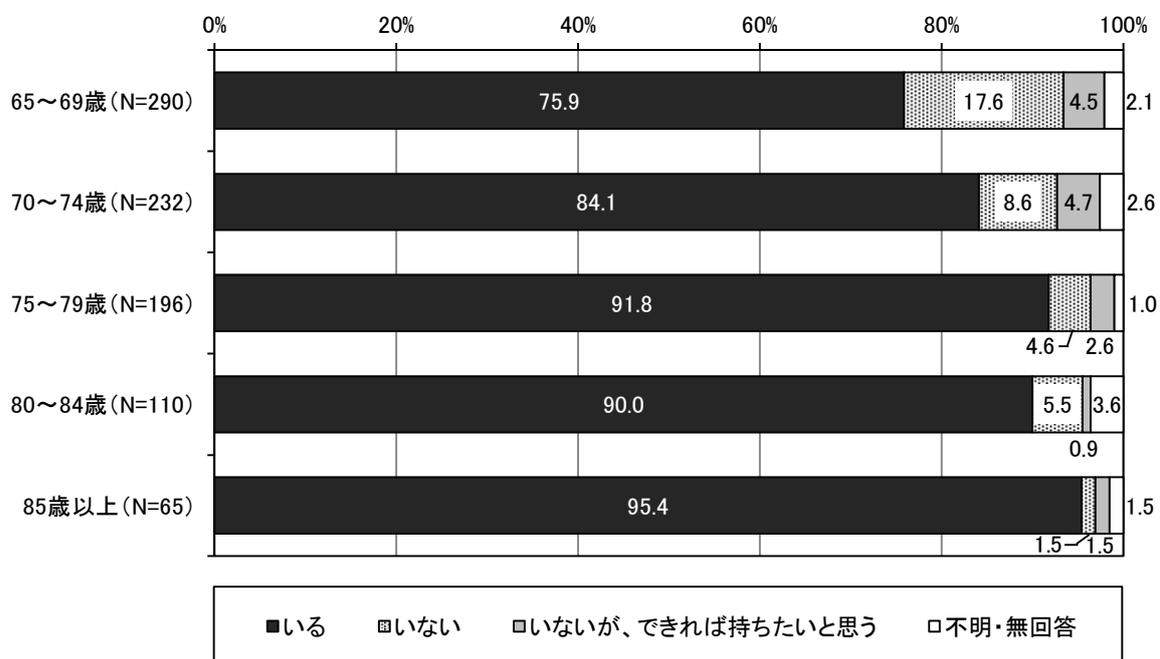
(1) かかりつけ医の有無【問7(1)】

かかりつけ医の有無についてみると、「いる」が84.0%と最も高く、次いで「いない」が9.8%となっています。



■クロス集計【問7(1)×年齢別】

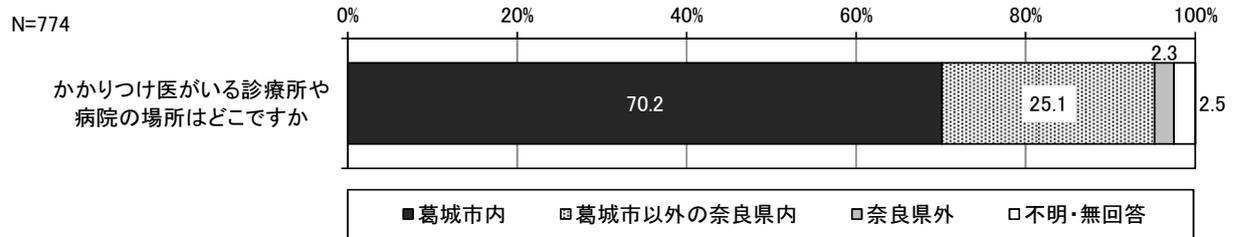
年齢別にみると、「いる」の割合は、年齢があがるにつれて高くなっています。「いる」の割合は、75歳以上から9割を超えています。



【かかりつけ医がいる回答者のみ】

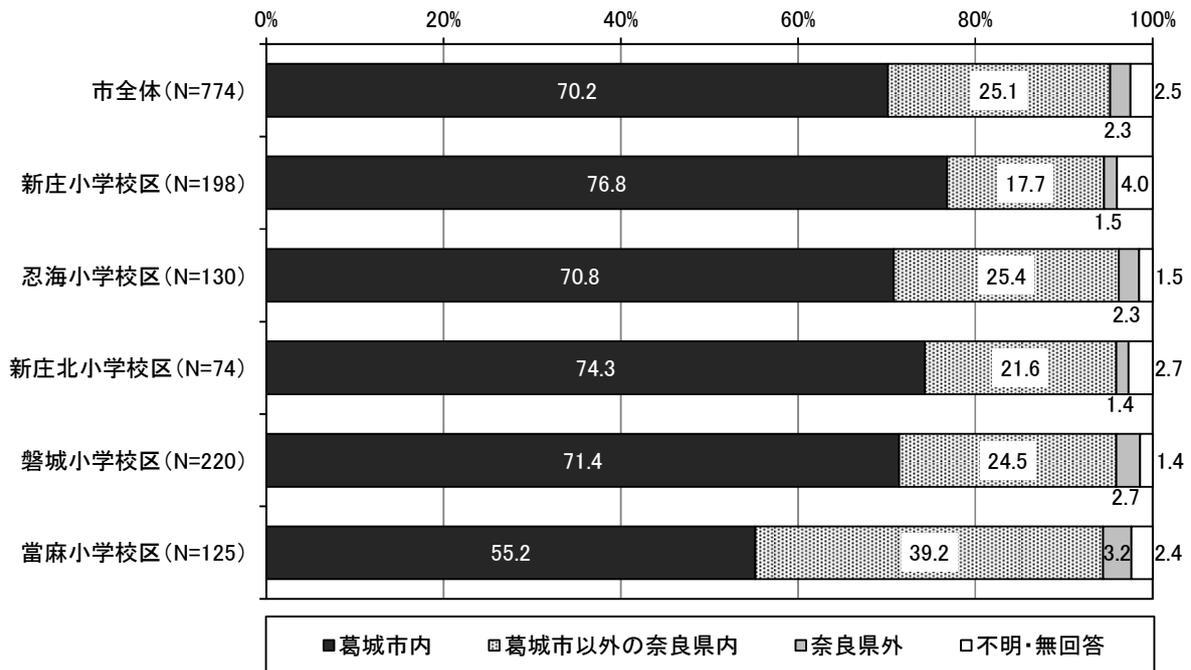
(2) かかりつけ医がいる診療所や病院の場所【問7(2)】

かかりつけ医がいる診療所や病院の場所についてみると、「葛城市内」が70.2%と最も高く、次いで「葛城市以外の奈良県内」が25.1%となっています。



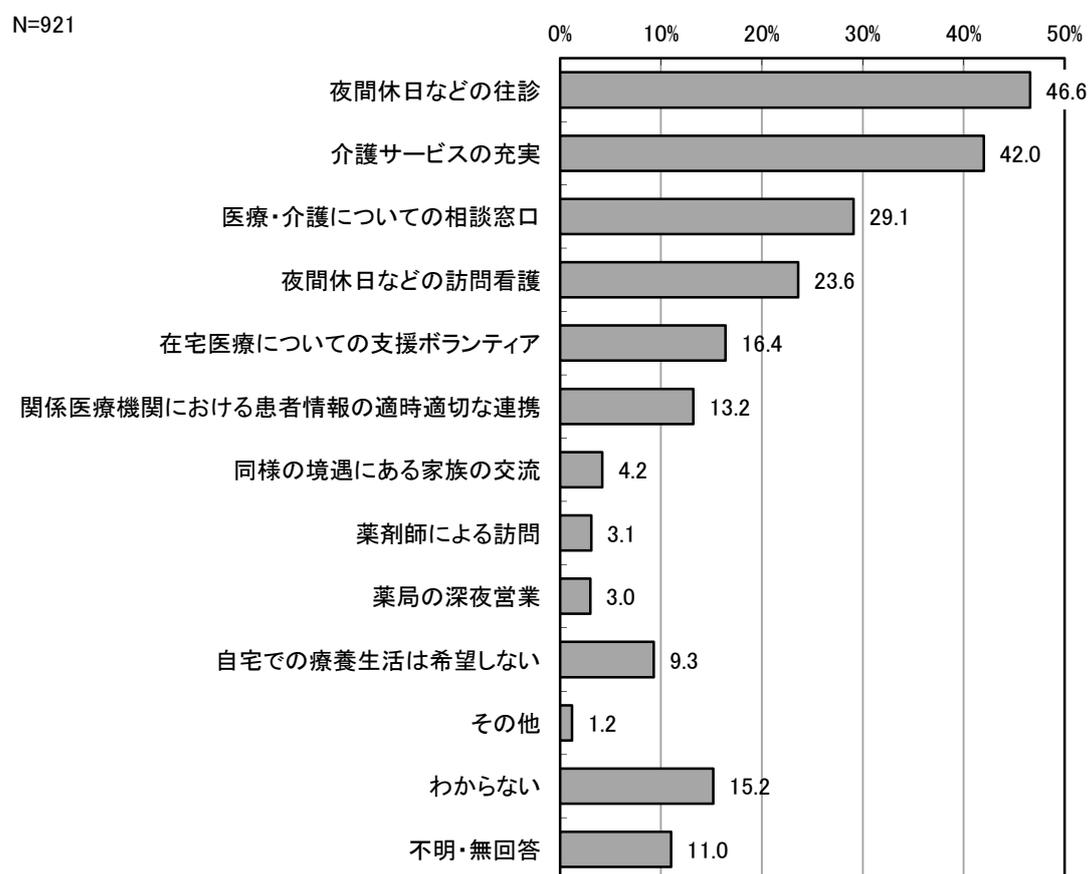
■クロス集計【問7(2)×小学校区別】

小学校区別にみると、『当麻小学校区』において「葛城市以外の奈良県内」が高くなっており、『市全体』より14.1ポイント高くなっています。



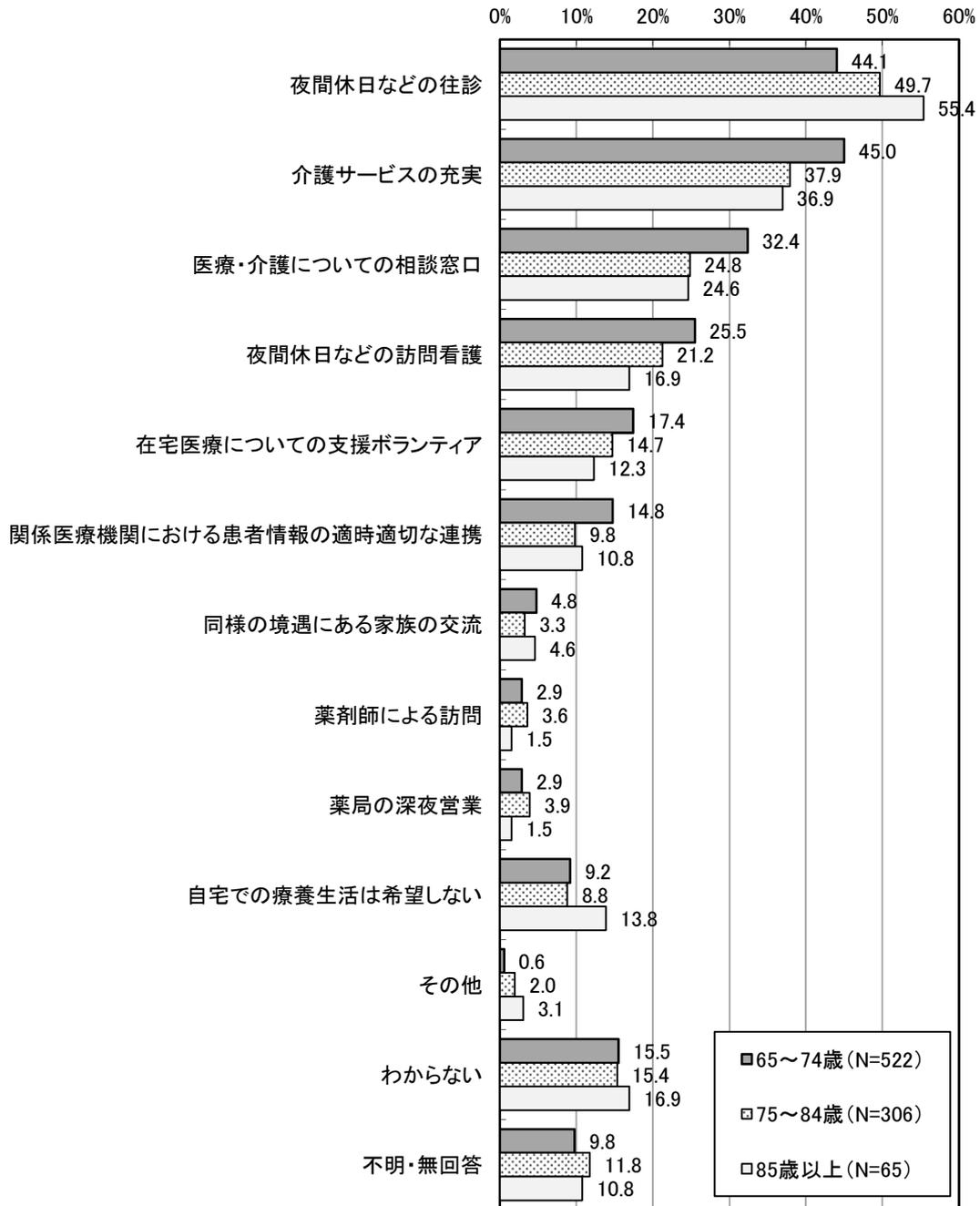
(3) 安心して療養生活を送るために必要なこと【問7(3)】

自宅にいながら医療的支援が日常的に必要なときに、何があれば安心して療養生活を送れるかについてみると、「夜間休日などの往診」が46.6%と最も高く、次いで「介護サービスの充実」が42.0%となっています。



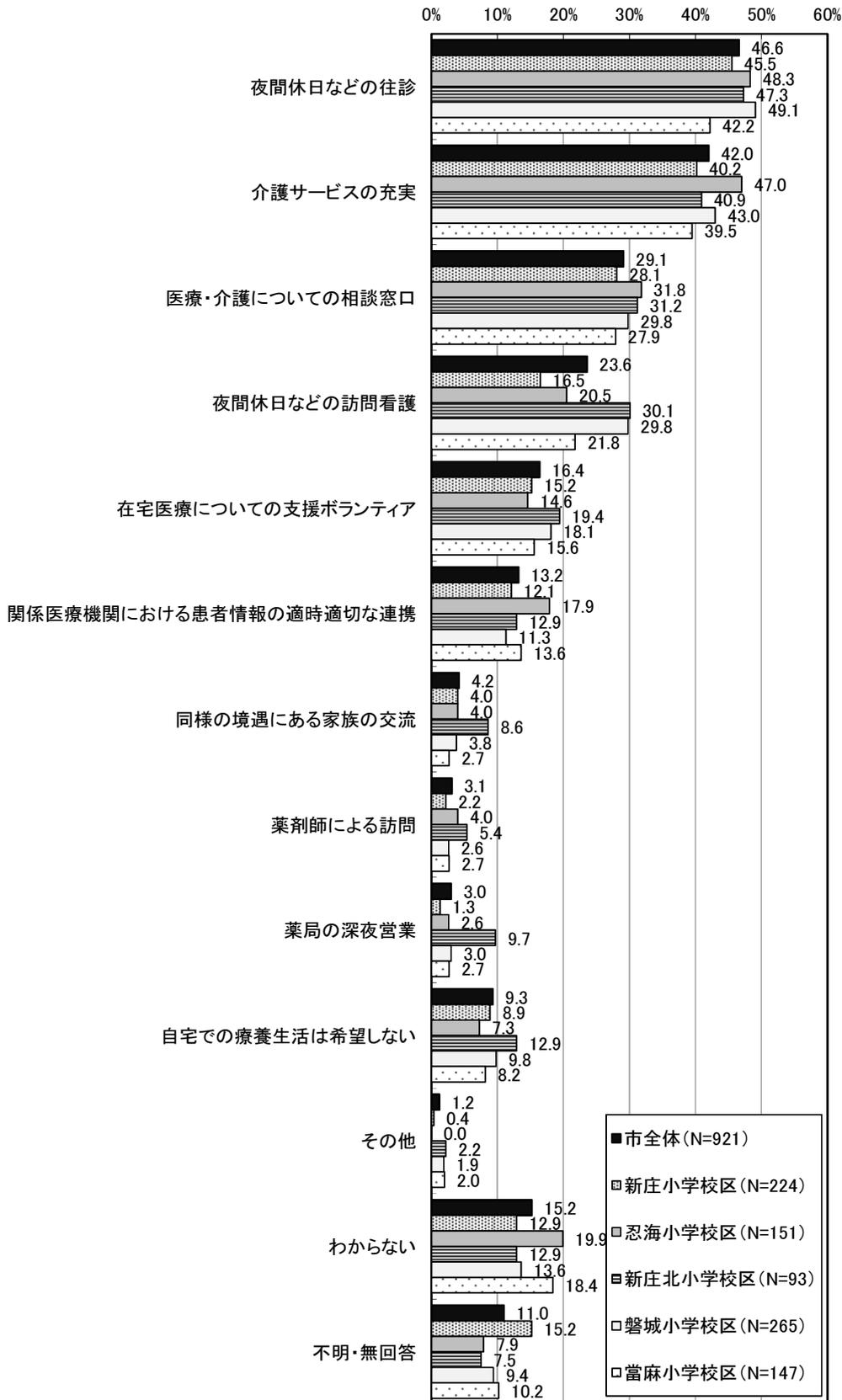
■クロス集計【問7(3)×年齢別】

年齢別にみると、「夜間休日などの往診」は『85歳以上』で高くなっています。「介護サービスの充実」や「医療・介護についての相談窓口」は『65～74歳』で高くなっています。



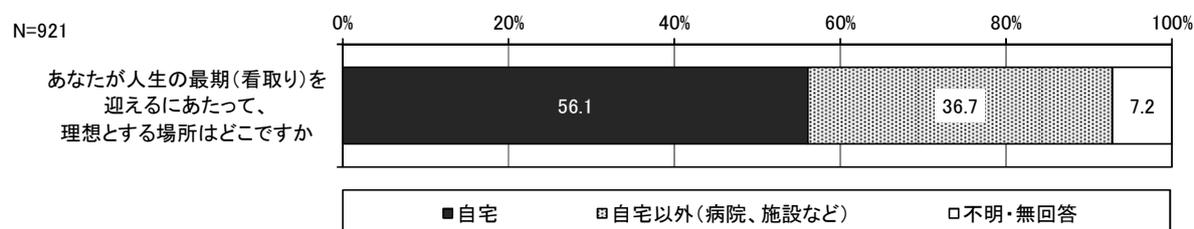
■クロス集計【問7(3)×小学校区別】

小学校区別にみると、「夜間休日などの訪問看護」が『新庄北小学校区』で比較的高く、『新庄小学校区』で比較的低くなっています。



(4) 人生の最期を迎えるにあたって理想とする場所【問7(4)】

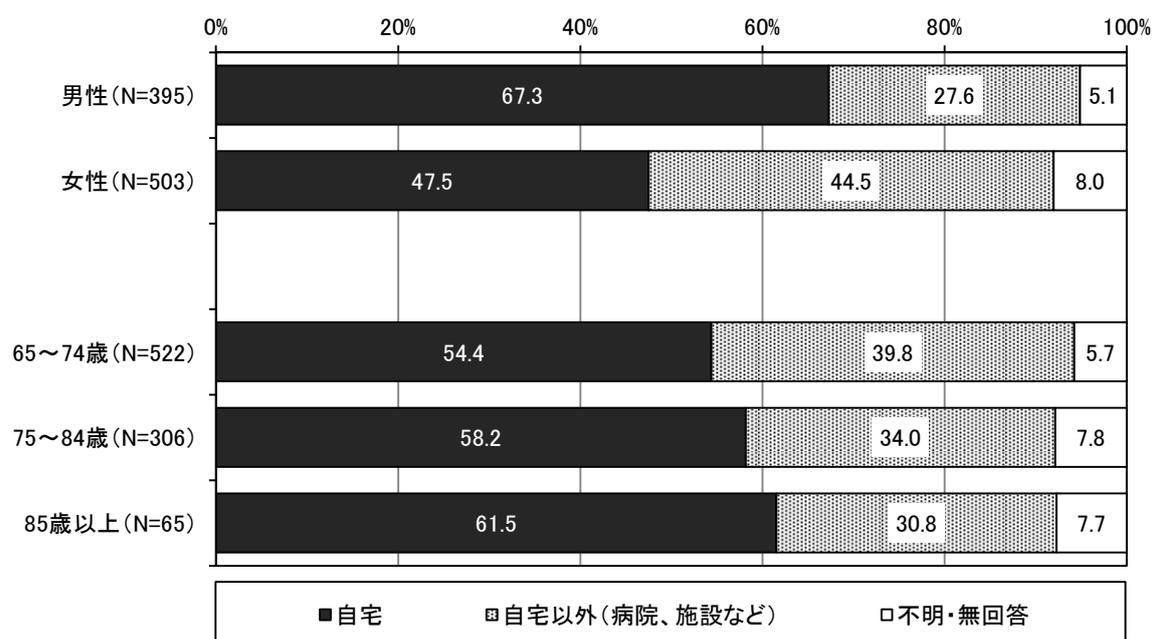
人生の最期(看取り)を迎えるにあたって理想とする場所についてみると、「自宅」が56.1%、「自宅以外(病院、施設など)」が36.7%となっています。



■クロス集計【問7(4)×男女別・年齢別】

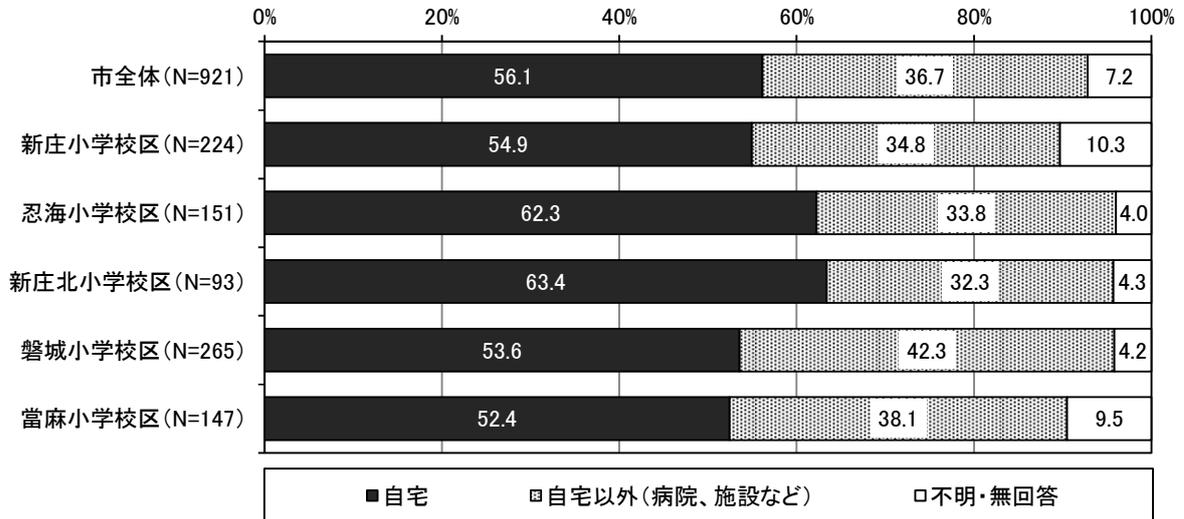
男女別にみると、「自宅」の割合は、男性で67.3%、女性で47.5%となっており、男性の方が19.8ポイント高くなっています。

年齢別にみると、「自宅」の割合は、年齢があがるにつれて高くなっています。『85歳以上』では6割以上が「自宅」と回答しています。



■クロス集計【問7(4)×小学校区別】

小学校区別にみると、「自宅」の割合は、『忍海小学校区』『新庄北小学校区』で比較的高くなっています。『新庄北小学校区』については、『市全体』と比較して7.3ポイント高くなっています。



◎参考資料【奈良県人口動態統計より】

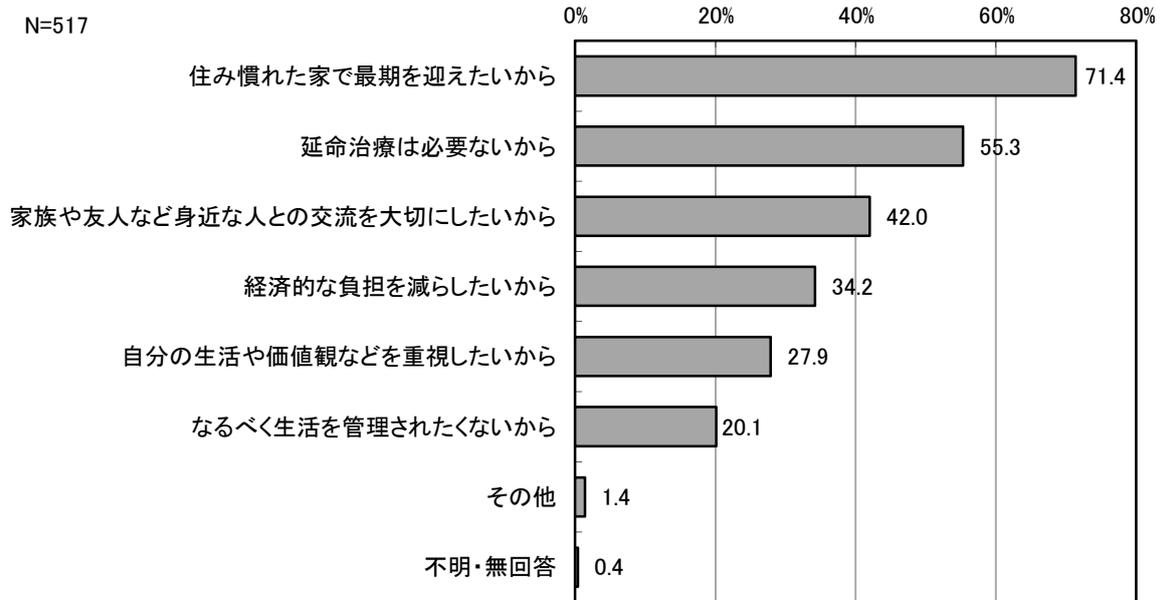
本市の死亡者における死亡場所の内訳についてみると、「自宅」の割合は平成27年で1割半ばとなっています。

	上段:(人)				
	下段:(%)				
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
病院	218 76.0	211 66.6	257 72.0	256 72.9	248 69.3
診療所	2 0.7	1 0.3	1 0.3	0 0.0	3 0.8
介護老人保健施設	3 1.0	3 0.9	6 1.7	3 0.9	7 2.0
老人ホーム	24 8.4	37 11.7	34 9.5	39 11.1	36 10.1
自宅	34 11.8	61 19.2	53 14.8	45 12.8	53 14.8
その他	6 2.1	4 1.3	6 1.7	8 2.3	11 3.1
計	287	317	357	351	358

【「自宅」の回答者のみ】

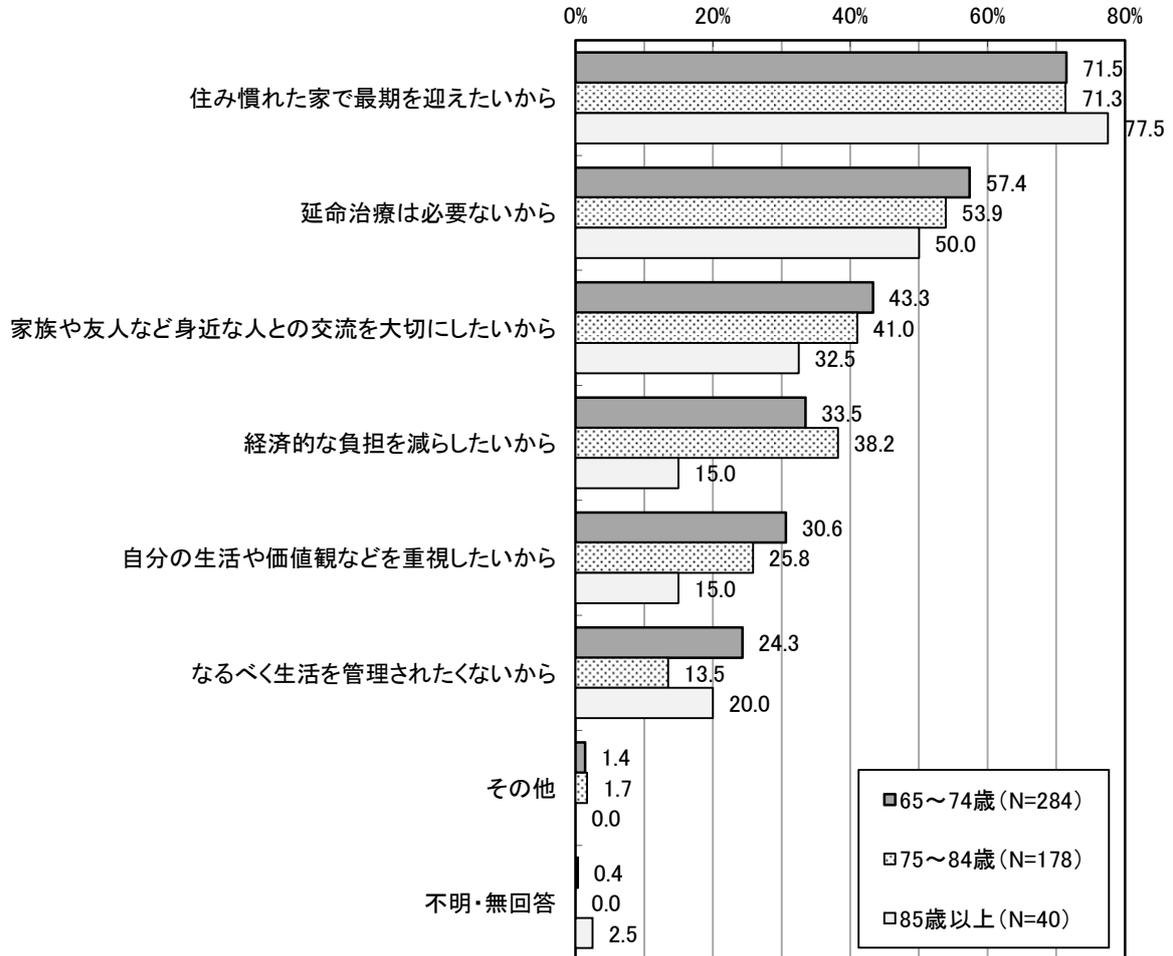
(5) 自宅での看取りを希望する理由【問7(5)】

自宅での看取りを希望する理由についてみると、「住み慣れた家で最期を迎えたいから」が71.4%と最も高く、次いで「延命治療は必要ないから」が55.3%となっています。



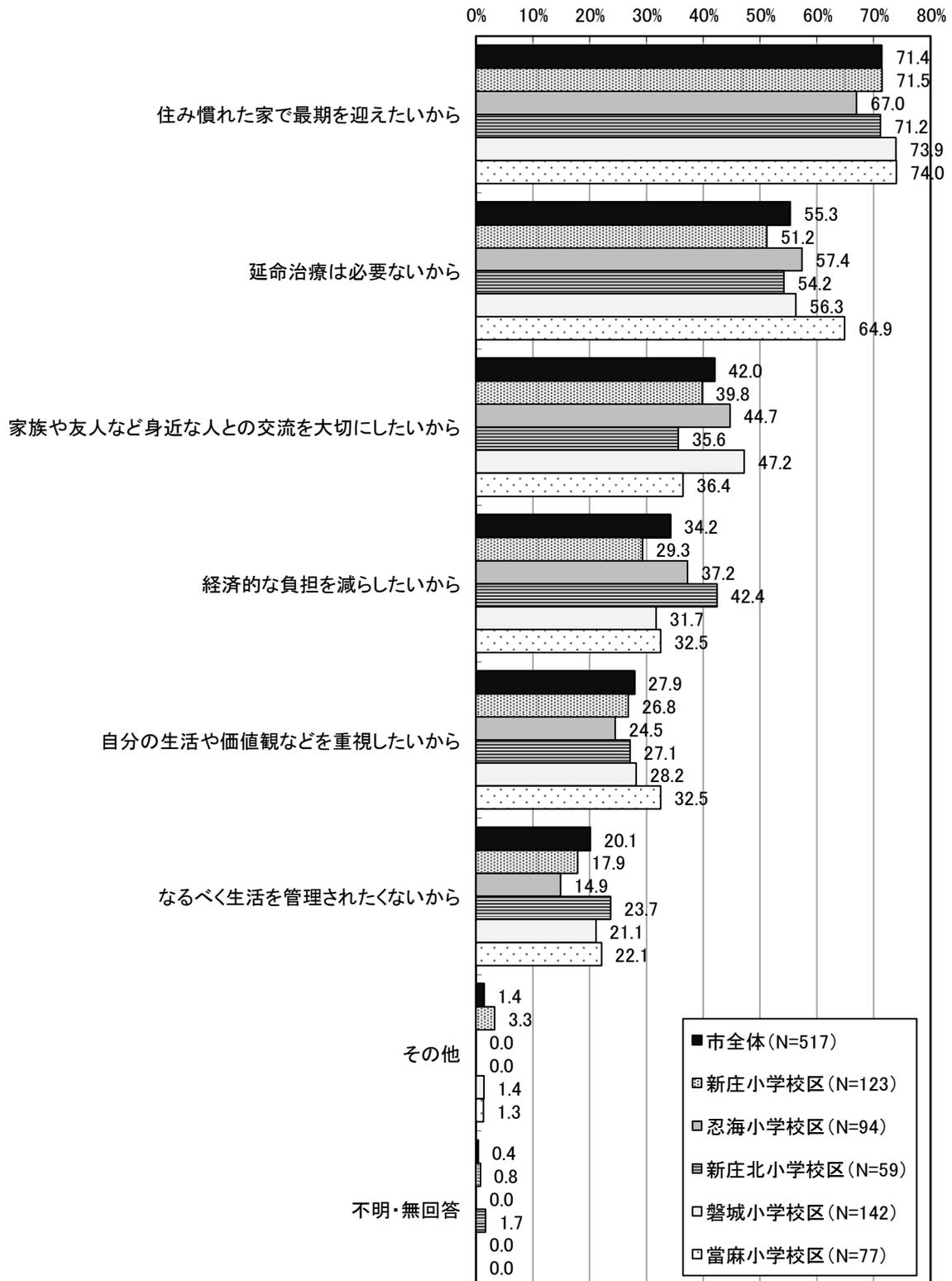
■クロス集計【問7(5)×年齢別】

年齢別にみると、『85歳以上』では「経済的な負担を減らしたいから」「自分の生活や価値観などを重視したいから」が低くなっています。



■クロス集計【問7(5)×小学校区別】

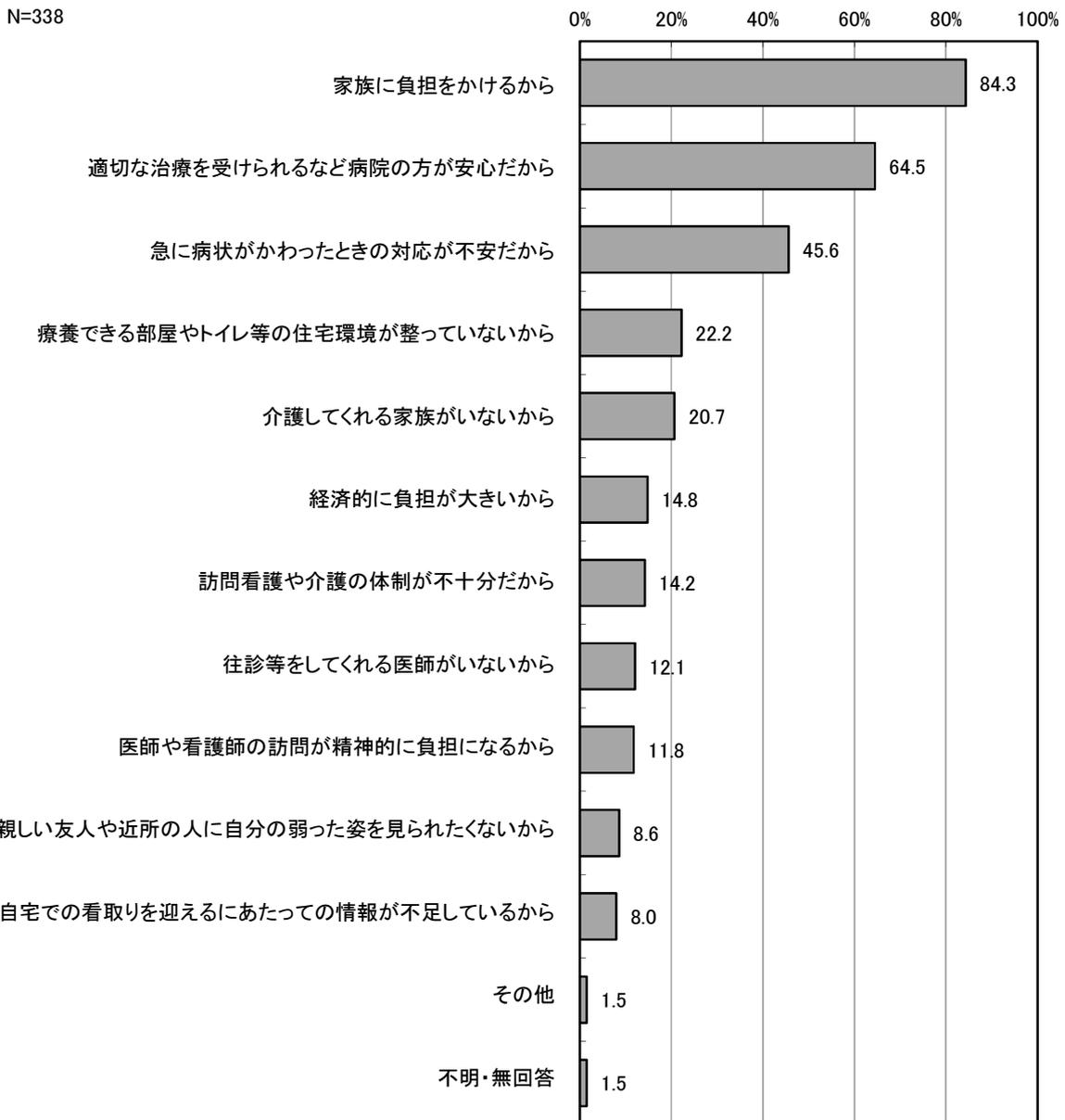
小学校区別にみると、「延命治療は必要ないから」については、『當麻小学校区』で高くなっており、『市全体』と比較して9.6ポイント高くなっています。また、「経済的な負担を減らしたいから」については、『新庄北小学校区』で高くなっており、『市全体』と比較して8.2ポイント高くなっています。



【「自宅以外（病院、施設など）」の回答者のみ】

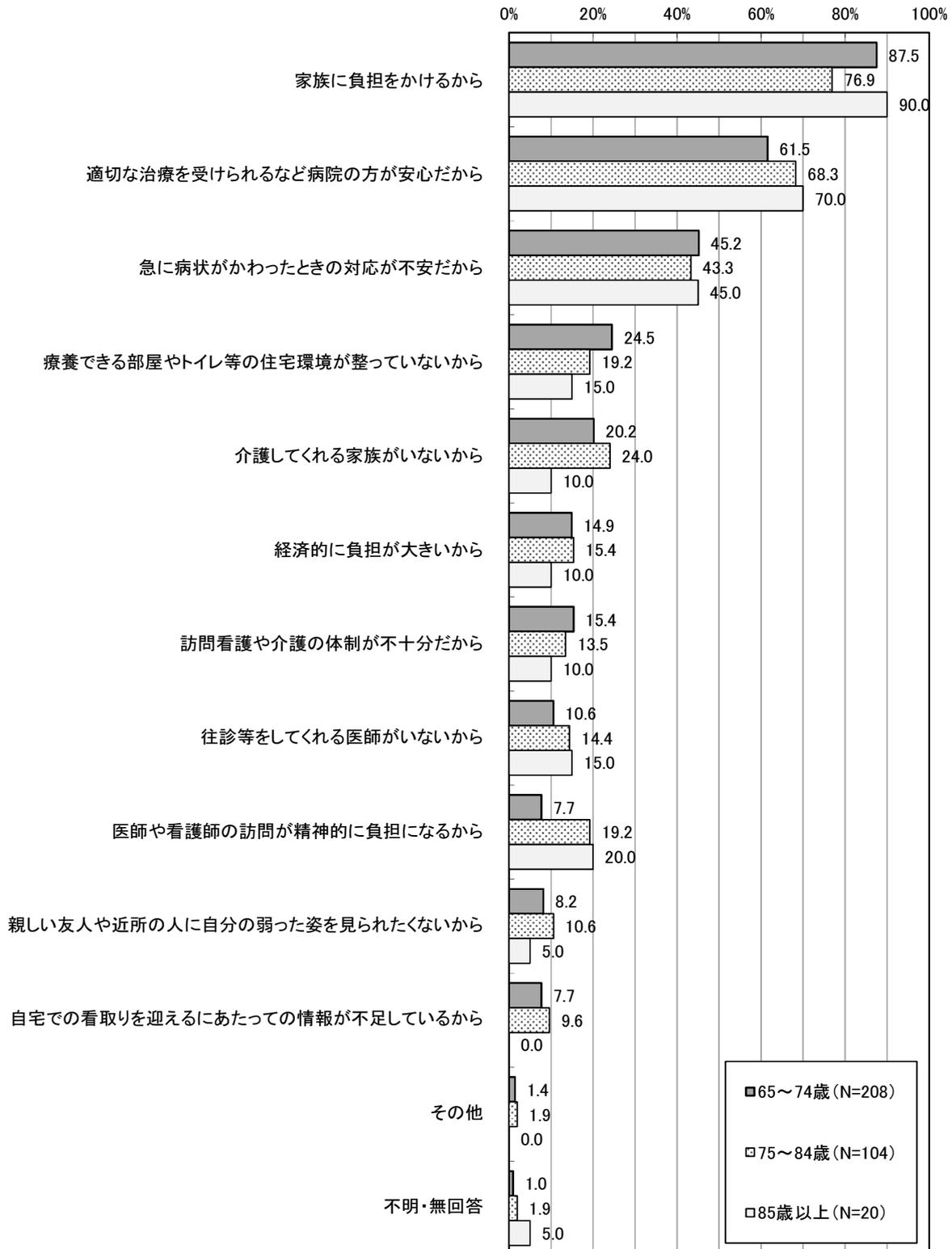
（6）自宅での看取りを希望しない理由【問7（6）】

自宅での看取りを希望しない理由についてみると、「家族に負担をかけるから」が84.3%と最も高く、次いで「適切な治療を受けられるなど病院の方が安心だから」が64.5%となっています。



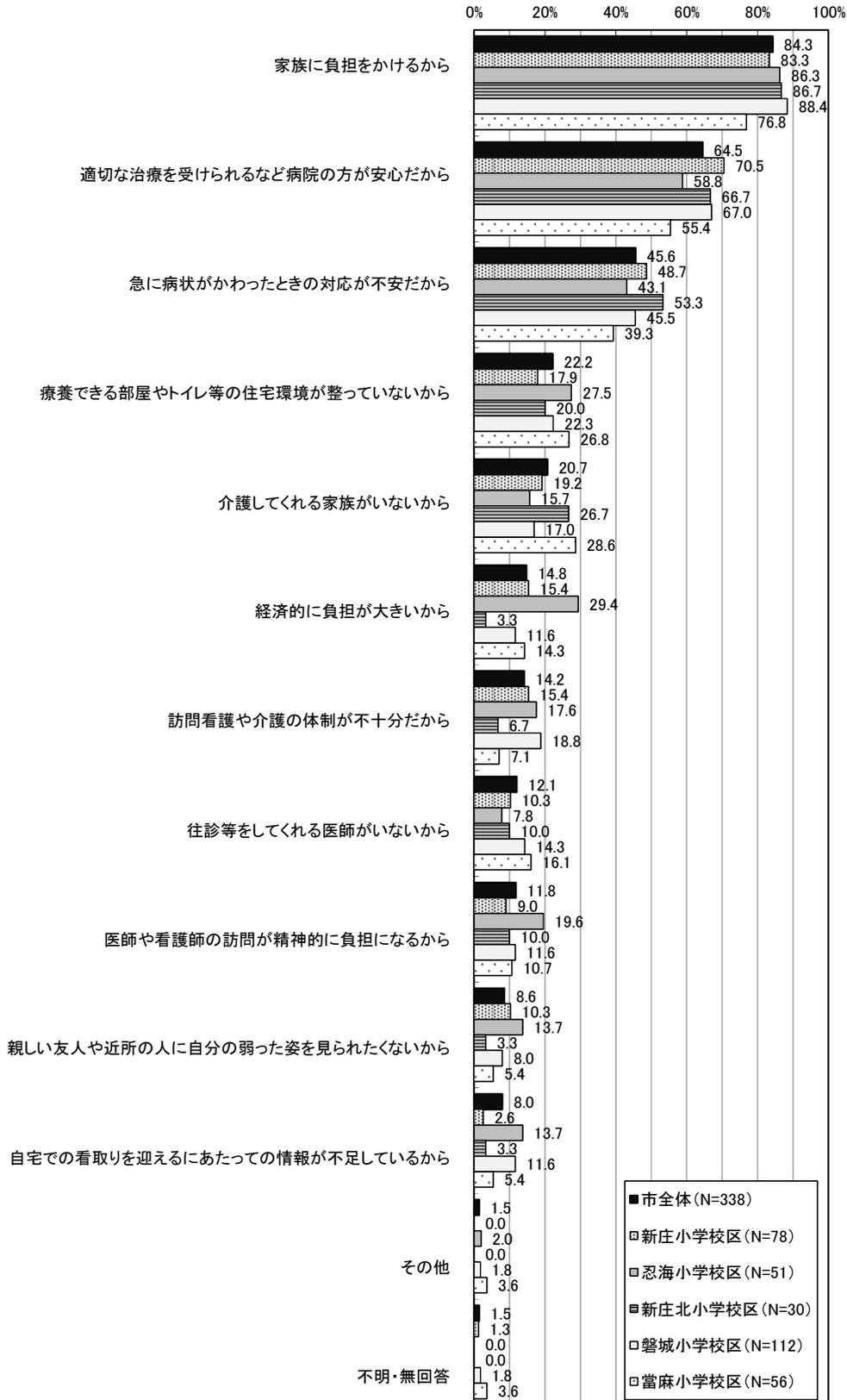
■クロス集計【問7(6)×年齢別】

年齢別にみると、『75～84歳』では「家族に負担をかけるから」が比較的低くなっています。また、「適切な治療を受けられるなど病院の方が安心だから」は、年齢があがるにつれて高くなっています。



■クロス集計【問7(6)×小学校区別】

小学校区別にみると、「家族に負担をかけるから」については、『當麻小学校区』で低くなっており、『市全体』と比較して7.5ポイント低くなっています。また、「適切な治療を受けられるなど病院の方が安心だから」についても『當麻小学校区』で低くなっており、『市全体』と比較して9.1ポイント低くなっています。

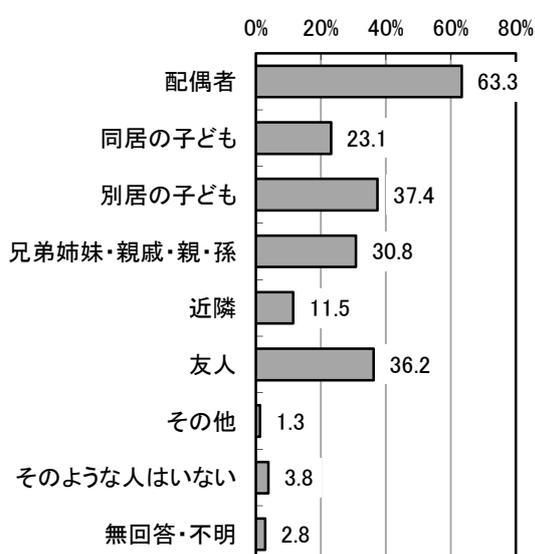


8. たすけあいについて

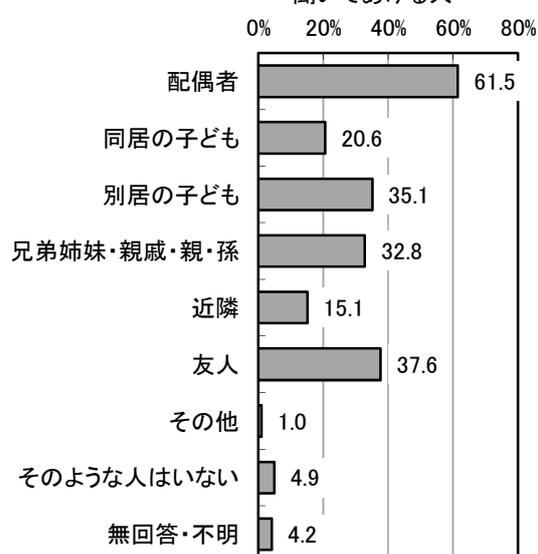
(1) まわりの人との「たすけあい」について【問8(1)～(4)】

いずれの項目についても「配偶者」が6割以上と高くなっています。「心配事や愚痴」については聞いてくれる、聞いてあげるともに「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」が高くなっています。「看病や世話」については「友人」が少なくなります。

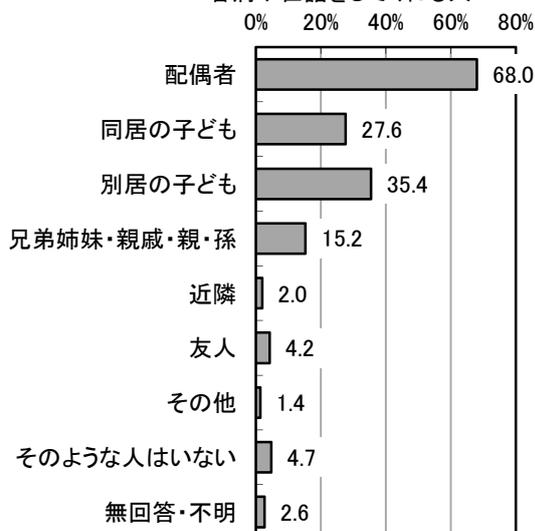
N=921 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人



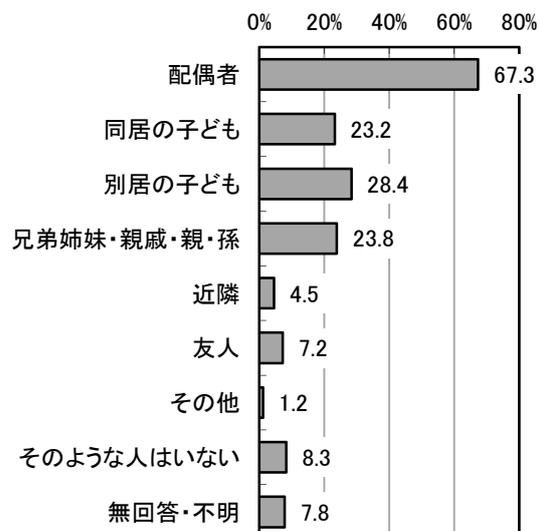
N=921 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人



N=921 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



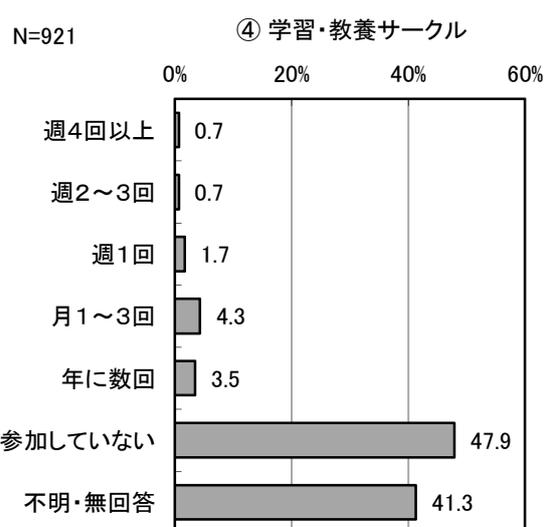
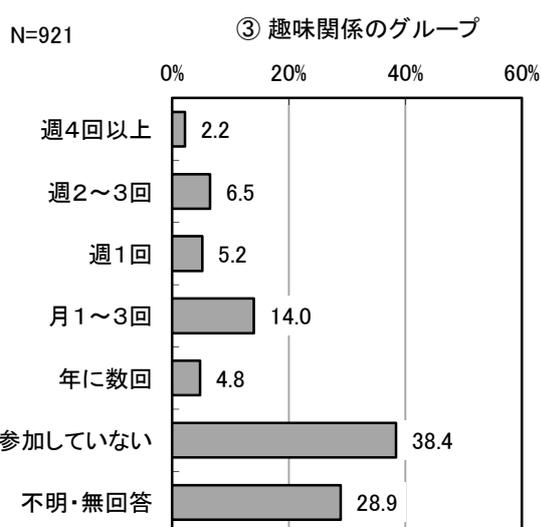
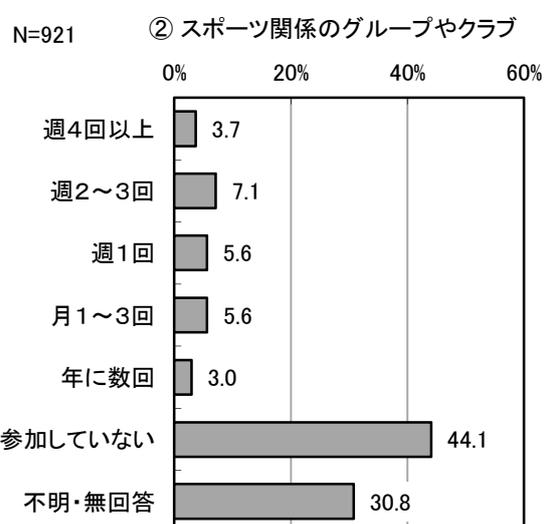
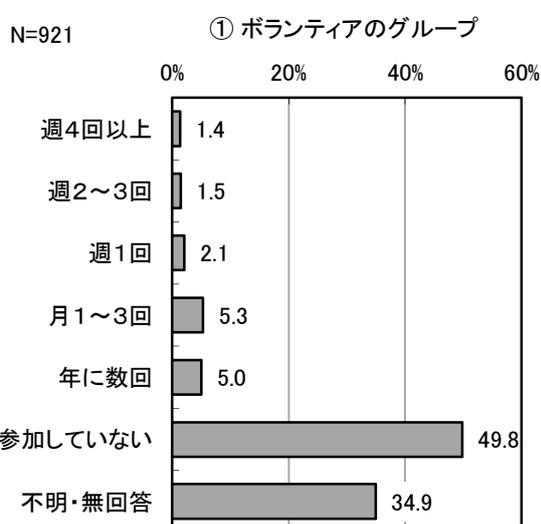
N=921 反対に、看病や世話をしてあげる人

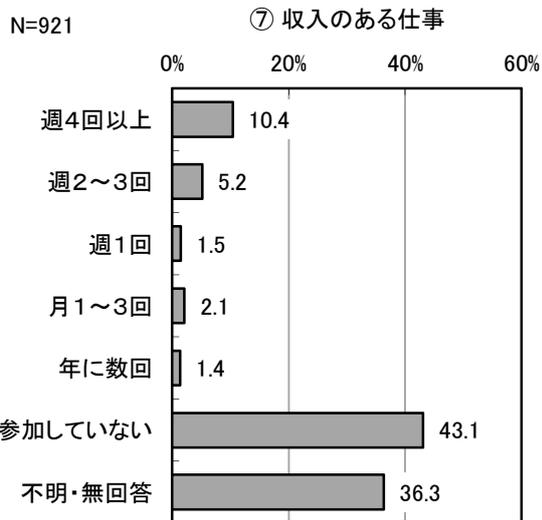
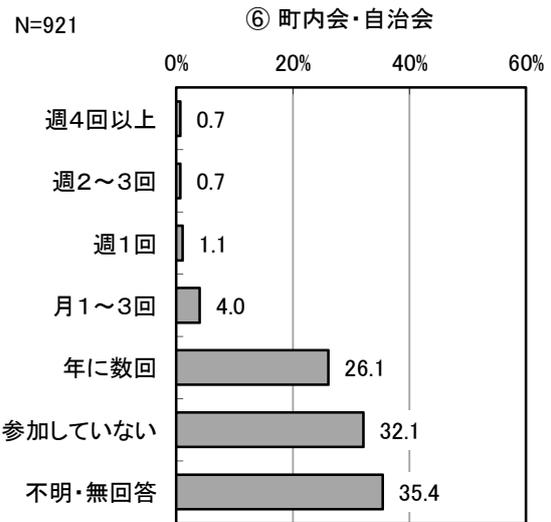
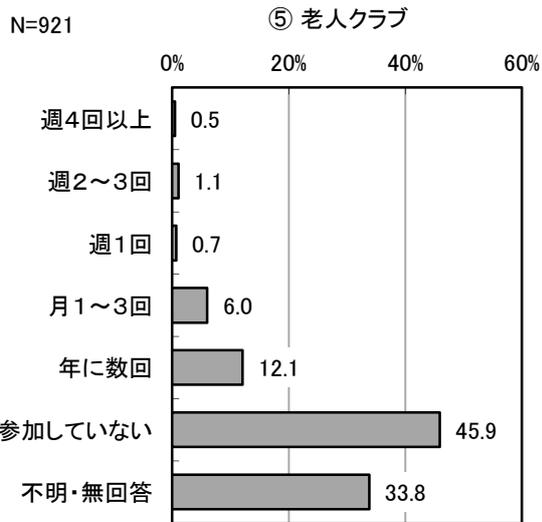


9. 地域での活動について

(1) 会・グループ等への参加頻度【問9(1)】

会・グループ等への参加頻度についてみると、いずれの項目についても「参加していない」が最も高くなっています。参加しているという回答の合計が高いのは、【③ 趣味関係のグループ】の32.7%、次いで【⑥ 町内会・自治会】の32.6%となっています。また、週1回以上および回答の合計が最も高いのは、【⑦ 収入のある仕事】の17.1%、次いで【② スポーツ関係のグループやクラブ】の16.4%となっています。





■クロス集計【問9(1)×小学校区別】

会・グループ等への参加頻度について、地域間で差がみられた活動について、以下に示しています。

「③ 趣味関係のグループ」についてみると、『當麻小学校区』において比較的低くなっています。

「⑦ 収入のある仕事」についてみると、『忍海小学校区』において比較的高くなっています。

③趣味関係のグループ	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
市全体(N=921)	2.2	6.5	5.2	14.0	4.8	38.4	28.9
新庄小学校区(N=224)	1.8	8.5	6.7	15.6	4.0	37.5	25.9
忍海小学校区(N=151)	1.3	7.3	4.0	14.6	6.0	38.4	28.5
新庄北小学校区(N=93)	2.2	7.5	6.5	14.0	6.5	35.5	28.0
磐城小学校区(N=265)	2.3	4.9	4.5	16.6	4.5	37.0	30.2
當麻小学校区(N=147)	3.4	5.4	4.1	8.2	5.4	45.6	27.9

⑦収入のある仕事	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
市全体(N=921)	10.4	5.2	1.5	2.1	1.4	43.1	36.3
新庄小学校区(N=224)	11.2	3.1	2.2	0.4	1.8	47.8	33.5
忍海小学校区(N=151)	13.2	8.6	2.0	1.3	2.6	41.1	31.1
新庄北小学校区(N=93)	8.6	5.4	0.0	2.2	0.0	41.9	41.9
磐城小学校区(N=265)	10.6	4.5	1.9	2.6	0.8	41.9	37.7
當麻小学校区(N=147)	8.2	6.1	0.7	4.8	1.4	44.2	34.7

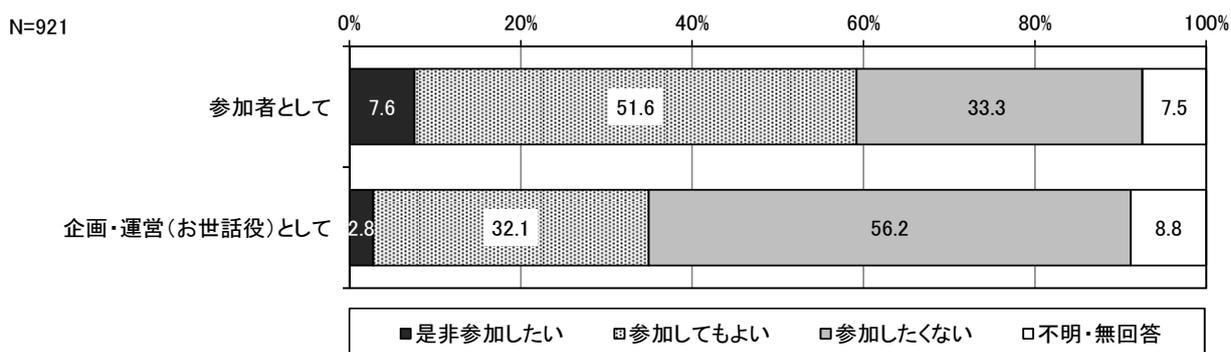
■クロス集計【問9(1)⑦×年齢別】

「⑦ 収入のある仕事」への参加頻度を年齢別にみると、『65～74歳』では14.9%であるのに対して、75歳以上になると割合は大きく低下します。

⑦収入のある仕事	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	不明・無回答
65～74歳(N=522)	14.9	7.7	1.5	2.9	1.7	43.3	28.0
75～84歳(N=306)	4.6	2.3	2.0	1.3	1.0	44.1	44.8
85歳以上(N=65)	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	58.5

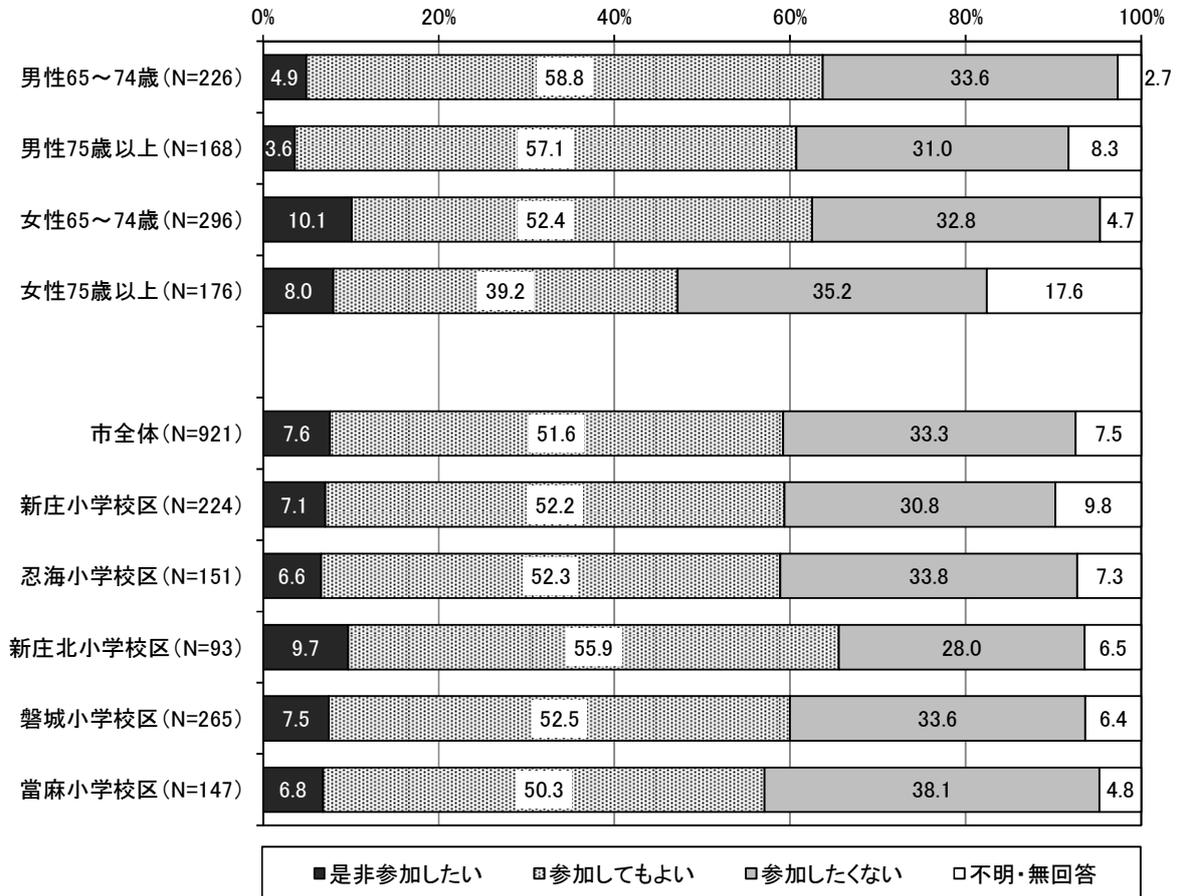
(2) 地域づくりへの参加希望【問9(2)~(3)】

いきいきした地域づくりを進めるための活動に向けた参加者としての参加意向についてみると、「参加してもよい」が51.6%と最も高く、次いで「参加したくない」が33.3%となっています。また、企画・運営（お世話役）としての参加意向についてみると、「参加したくない」が56.2%と最も高く、次いで「参加してもよい」が32.1%となっています。



■クロス集計【問9(2)×男女別・年齢別及び小学校区別】

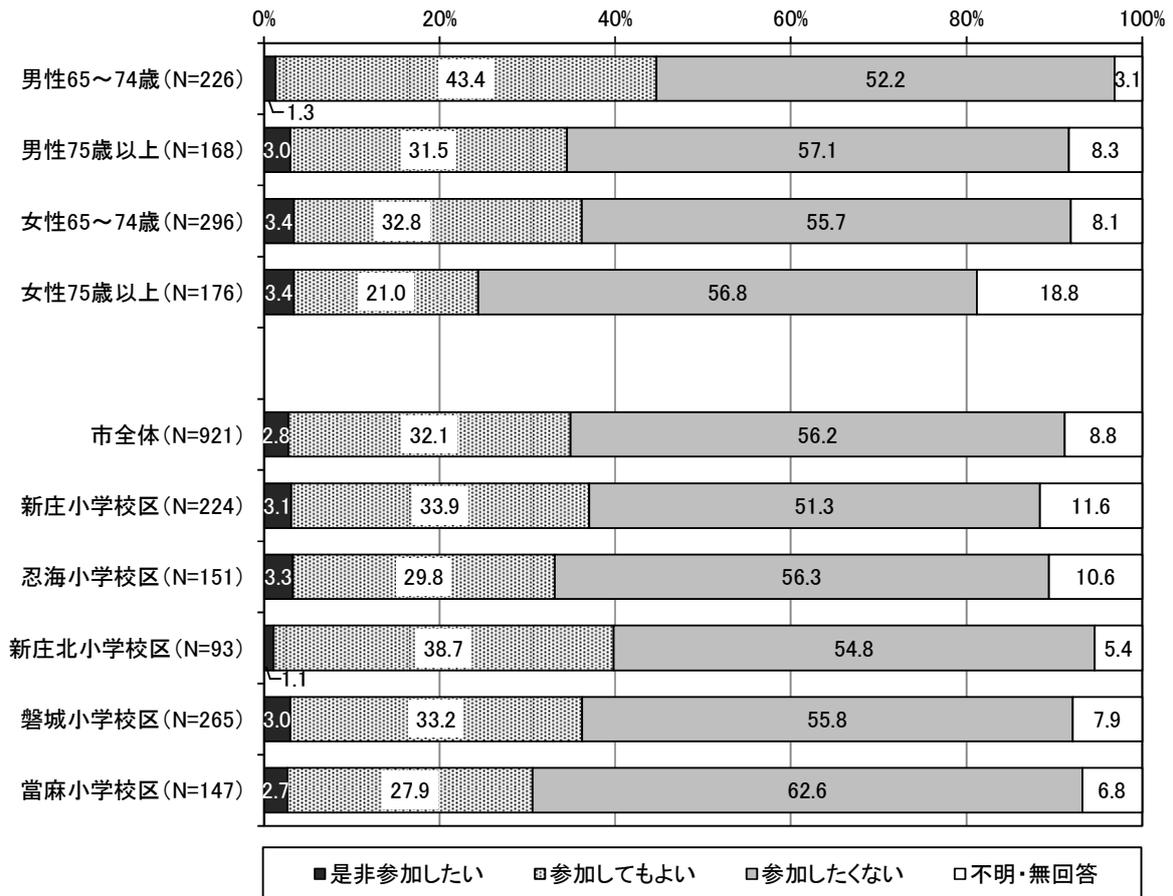
参加者としての参加意向について男女別・年齢別にみると、女性の方が比較的「是非参加したい」の割合は高い一方で、75歳以上になると参加意向が少なくなる傾向にあります。
小学校区別にみると、『新庄北小学校区』でやや高くなっています。



■クロス集計【問9(3)×男女別・年齢別及び小学校区別】

企画・運営（お世話役）としての参加意向について男女別・年齢別にみると、『男性 65～74 歳』において「参加してもよい」が高くなっています。男性の方が、企画・運営（お世話役）としての参加意向が比較的高い傾向にあります。

小学校区別にみると、『新庄北小学校区』で『市全体』と比較して 6.6 ポイント高くなっています。



(3) 困っている人を地域で支えていくために考えられる方策やアイデア【問9(4)】

困っている人を地域で支えていくために考えられる方策やアイデアについて、回答の要旨に基づいて分類を行いました。「地域で語り合うことや交流することについて」の内容が30件と最も多く、次いで「あいさつや声かけ、見守りについて」の内容が21件となっています。

項目	件数
地域で語り合うことや交流することについて	30
あいさつや声かけ、見守りについて	21
行政による取り組みを進めることについて	13
ボランティアの確保・育成について	9
移動の充実について	8
民生委員の取り組みの充実について	8
買い物支援の充実について	6
具体的な取り組みや提案について	6
日々の心がけや学びによって前向きに考えることについて	5
支え合うことの重要性について	4
施設の充実・活用について	5
電子化の取り組みを進めることについて	2
特になし	2
わからない	3
その他	29